

# 震災津波伝承施設（仮称） 展示等基本設計（案）

## 目次

1、全体計画	・・・・・・・・・・	01～16
2、展示計画	エントランス	・・・・・・17～19
	ZONE1	・・・・・・20～22
	ZONE2	・・・・・・23～30
	ZONE3	・・・・・・31～37
	ZONE4	・・・・・・38～40
	ZONE5	・・・・・・41～42
	ターゲット	・・・・・・43
	震災遺構	・・・・・・44
3、事業計画	・・・・・・・・・・	45～47

平成29年2月  
岩手県復興局

# 1. 全体計画

---

## ● 展示の基本的な考え方（震災津波伝承施設展示等基本計画より）

## 1 震災津波伝承施設の整備方針

- ・ 東日本大震災津波の事実と教訓の世界そして未来への伝承
- ・ 復興に立ち上がる姿と感謝の発信
- ・ 三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能を有する施設として整備
- ・ 屋外の震災遺構等を震災被害の実物展示として活用

## 2 震災津波伝承施設の使命

- ・ 多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承
- ・ 世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信

## 3 展示のテーマ（展示を通じ、問いかけるもの）

**いのちを守り、海と大地と共に生きる**  
～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

## 4 展示の基本方針

東日本大震災津波の事実を  
浮き彫りにする展示

多面的な震災津波災害の事実をありのままに描き出す。

- 津波の事実
- 被害の事実
- 避難生活の事実
- 復興の事実 等

東日本大震災津波の実経験から  
の教訓を伝える展示

東日本大震災津波という未曾有の災害の実経験から得た教訓を伝える。

- 「逃げる」教訓
- 「助ける」教訓
- 「支援する」教訓
- 「復興」の教訓 等

津波災害への対応の歴史を  
学ぶ展示

津波災害と向き合い、備えてきた三陸地域の歴史などを通して、悲劇を繰り返さないために何をすべきかを考える場を創出する。



## ● 展示コンセプト

有識者や語り部等の意見も踏まえ、次のような4点を実現する展示を目指します。

### 私たちは「はかり知れない地球・自然災害リスクの高い日本列島」に生きていることへの気づきに導きます

動き続ける地球。その営みは科学・技術が高度に発達した現在でも計り知れないものです。人類は想像を超える大災害のリスクと常に隣り合わせにあること、東日本大震災津波も地球の営みから見ればその一つに過ぎないことへの気づきに導きます。

また、日本列島は地球上でも特に自然災害のリスクが高く、とりわけ三陸地域は、繰り返し津波に苦しめられてきた宿命の地であることを伝えます。そうした過酷な自然の中で懸命に生をかさね、その中で優れた智慧や技、文化を育んできたことを伝えます。

### 津波の脅威と失われた命の重さをしっかりと心に刻みます

多くの尊い命を奪い去った東日本大震災津波。この悲しみを再び繰り返さないためには、これから生きる人々に、この震災津波がいかに大きなものであったのかを知ってもらうことが重要です。

そのために、展示を具現化するにあたっては、この度の震災津波の脅威の実相と、それを経験した被災した方々の思い、命が失われるということの重さをありのままの事実として訴えかけ、人々の記憶に刻みつける展示を目指します。（ただし、子どもやそうした展示を見たくないという被災者の心情には配慮するものとします。）

### 人の意識・行動を変えることで命を守れることを学べる場とします

本施設が目指すのは、東日本大震災津波の経験から得た教訓を伝えることで未来の自然災害から人々の命を守ることです。地震や津波をコントロールすることはできないけれど、一人ひとりが自然災害に対する意識や行動を変え、備えをすることで、多くの命を守れるということを学べる場とします。

また、この未曾有の震災津波に我々日本人はどう立ち向ったのかを明らかにし、その経験から生まれた数々の教訓を未来の命を守る貴重な智慧として発信し、国内外の多くの人たちと共有できるようにします。

### 感謝の心を伝え、想い・智慧が凝縮した復興まちづくりを力強く発信します

全国・世界からのあたたかい支援に対する感謝の心を伝えるとともに、被災地の人々が願い取組んでいる、今度津波が来ても決して負けない地域づくりを力強く発信します。そこに秘められている復興に向けての夢や期待、あるいは、先端的な考え方や取組、新しい技術などを紹介し、復興まちづくりの生きたミュージアムとして三陸沿岸被災地を紹介します。

被災各地の復興への歩みとともに成長・発展する展示を工夫するなど、訪れた人々が被災地の営みや息づかいを身近に感じられるようにし、応援する心を育みます。

# 「東日本大震災津波」を全国、そして世界に伝承・発信する国際的な施設として。

東北地域のみならず、全国、世界からの  
利用者を想定。特に次代を担う子どもたちを  
積極的に誘致し、未来の津波災害から命を  
守るための伝承活動を展開。

## ●世界が記憶に刻んだ東日本大震災津波

観測史上最大級の規模を示す大地震、その地震によって発生した巨大津波、奪われた多くの尊い命。本施設がテーマとする東日本大震災津波は、世界各地の人々の記憶に、その衝撃とともに刻まれており、5年が経過した今でも、世界の人々は被災地を注視しています。

## ●高田松原津波復興祈念公園との相乗効果

震災遺構等が点在し、国が設置する追悼祈念施設を含む「高田松原津波復興祈念公園」内に設置される本施設は、こうした施設との相乗効果から高い認知度、震災津波学習拠点としての充実した機能の確保が可能となります。

## ●全国・世界における防災・減災意識の高まり

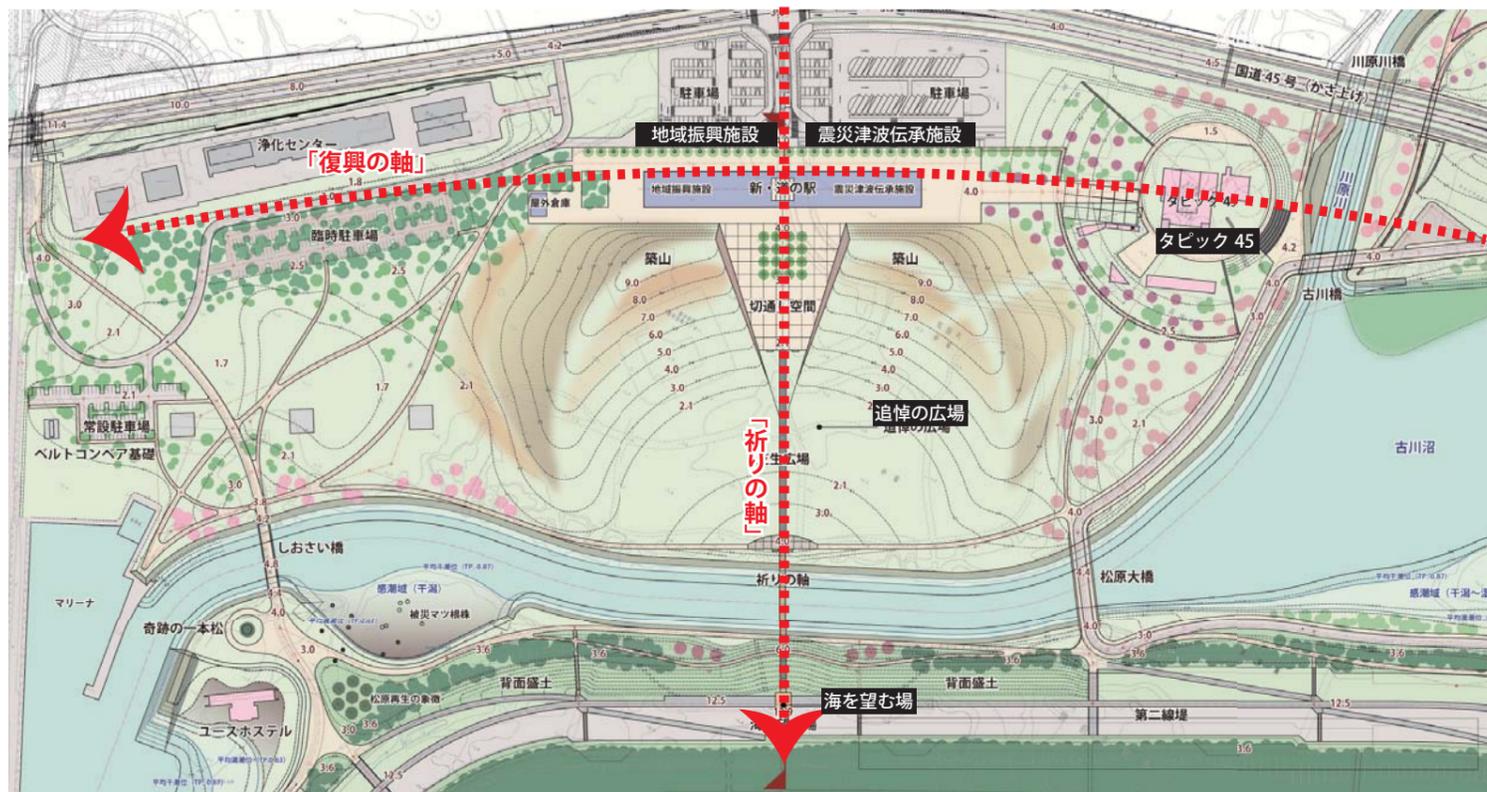
異常気象によって世界各地で洪水等の水害が頻発していることに加え、この度の未曾有の大災害を引き起こした東日本大震災津波が発生。全国・世界では自然災害に対する防災・減災意識が高まっています。

利用者の集客圏	利用の背景	具体的な利用者像
東北地域からの利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災津波によって甚大な被害を受けた東北地域では、二度と同じような悲劇を繰り返さないために、この記憶と教訓を未来に向けて確実に伝承していくことの必要性が広くそして強く認識されています。</li> <li>本展示学習施設は、周囲の震災遺構、追悼祈念施設との連携を想定しており、東日本大震災津波を総合的に学習できる拠点機能を充実したかたちで備えることとなります。</li> <li>以上のような観点から、東北全域から多くの利用者があることが想定されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災学習や地域学習で訪れる親子や、友人同士などの個人</li> <li>地域学習や社会科見学等、防災減災学習目的で訪れる小中学生</li> <li>防災減災に関わるシンポジウムや研究会等で訪れる高校生・大学生</li> <li>地域の町内会、自主防災団、消防団、ボランティア組織、婦人会等各種団体</li> <li>防災活動、被災時の救助・支援活動を担う行政の担当者・意思決定者</li> <li>震災津波災害関連の研究者・専門家、等</li> <li>その他、語り部などの市民ボランティアとして参画 など</li> </ul>
全国からの利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災津波は、被災地のみならず、全国・世界に脅威を与え、防災・減災に対する関心を高める契機となりました。取り分け日本では、南海トラフ地震をはじめとした将来の巨大地震の発生が各所で危惧されており、防災・減災に対する意識が非常に高まっているということが出来ます。</li> <li>絆という言葉に代表されるように、犠牲者への追悼の心、被災地の復興を願い応援する心が全国に根付いています。</li> <li>以上のような観点から、震災津波学習の場として、また、被災地とつながる場として日本全国から多くの利用者があることが想定されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災学習や地域学習で訪れる親子や、友人同士などの個人</li> <li>修学旅行や社会科見学等、防災減災学習目的で訪れる小中学生</li> <li>防災減災に関わるシンポジウムや研究会等で訪れる高校生・大学生</li> <li>巨大地震の発生が危惧されている地域の町内会、自主防災団、消防団、ボランティア組織、婦人会等各種団体</li> <li>防災活動、被災時の救助・支援活動を担う行政の担当者・意思決定者</li> <li>震災津波災害関連の研究者・専門家、等</li> <li>その他、被災地ボランティアや、ラグビーワールドカップ2019(TM)観戦のための長期滞在客 など</li> </ul>
世界からの利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災津波の衝撃は、日本人のみならず世界の人々の記憶に深く刻まれました。復興の経過についても世界から注目が集まっています。</li> <li>ラグビーワールドカップ2019(TM)、2020年東京五輪で観光地として三陸を訪れる外国人旅行客が飛躍的に増大することが想定されます。</li> <li>三陸ジオパークや郷土芸能など、観光地としてのポテンシャルが高いことから、世界からの利用者も大いに期待できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災観光旅行で訪れる個人や家族</li> <li>防災減災学習目的で訪れる学校団体、ボーイスカウト等の子ども団体</li> <li>自治体や研究会などの防災研修・視察の各種団体</li> <li>防災活動、被災時の救助・支援活動を担う行政の担当者・意思決定者</li> <li>震災津波災害関連の研究者・専門家、等</li> <li>その他、2020東京五輪で三陸を訪れる観光旅行客 など</li> </ul>

陸前高田市街地から「海を臨む場」に至る海に向かう線は「祈りの軸」として高田松原津波復興祈念公園基本計画に位置付けられており、日常の世界から「追悼の広場」、「海を望む場」へと結んでいます。一方、震災遺構である「タピック45」から本施設を結び地域振興施設へと延びていく線は、過去から未来へ、震災の記憶から復興へとつなぐ「復興の軸」として捉えられ、これを意識して建築設計が進められています。この二つの軸線が、本建造物の中央で交差する構成となっており、本建造物を象徴的なものとしています。

展示設計にあたっては、以上のような、建物が立地する敷地全体のランドスケープの考え方、そこに込められている意味を踏まえて行うものとしします。

### 施設の全体像



高田松原津波復興祈念公園の基本設計より

### 国営追悼・祈念施設(仮称)及び周辺区域の鳥瞰イメージ



高田松原津波復興祈念公園の基本設計より

### 公園内の震災遺構

高田松原津波復興祈念公園内の主な震災遺構等



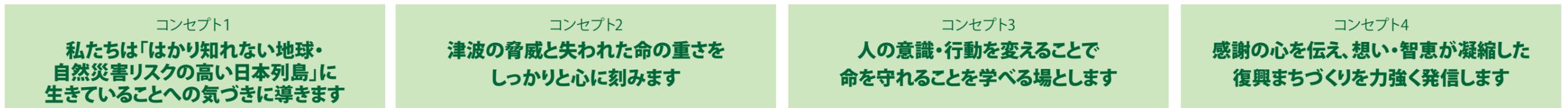
震災津波伝承施設展示等基本計画

前述の展示テーマ・展示コンセプトの内容を実現するために、以下のような展示の特色をもたせます。

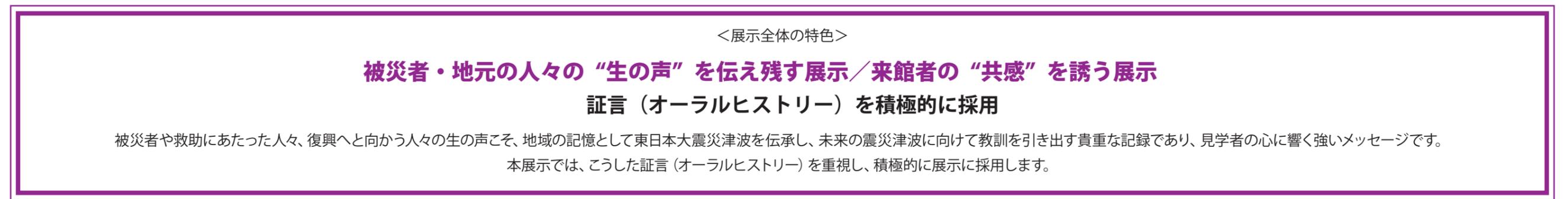
【展示のテーマ（展示を通じ、問いかけるもの）】

**いのちを守り、海と大地と共に生きる ～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～**

【展示コンセプト】



【展示の特色】



＜コンセプト1に対する展示の特色＞

**東日本大震災津波が起きたことを俯瞰的な視点からひもとく展示**

- 地球科学的視点の展示  
東日本大震災津波の発生を地球のメカニズムからひもといて伝え、科学的な理解を促し自然に対する畏怖を感じさせます。
- 歴史的視点の展示  
過去に起きた震災津波や襲来頻度を伝え、歴史的な視点から東日本大震災津波の襲来をとらえます。
- 地域の暮らし視点の展示  
昔から津波を乗り越え海とともに生きてきた三陸沿岸地域の暮らしを描き出し、海と地域との密接なつながりを伝えます。

＜コンセプト2に対する展示の特色＞

**震災津波の恐ろしさを実感できる臨場感のある展示**

- 被災物の展示  
東日本大震災津波の被災物を展示し、津波の破壊力や脅威を直感的に理解できるよう訴求します。
- 震災津波の大型映像・写真の展示  
大型映像や被災前後の写真によって、震災津波の脅威をありのままに伝え、実感できるよう展示します。
- 震災津波の脅威をデータで示す展示  
震災津波の威力や被害の大きさを、データによって具体的に示し、津波の恐ろしさを裏付けます。

＜コンセプト3に対する展示の特色＞

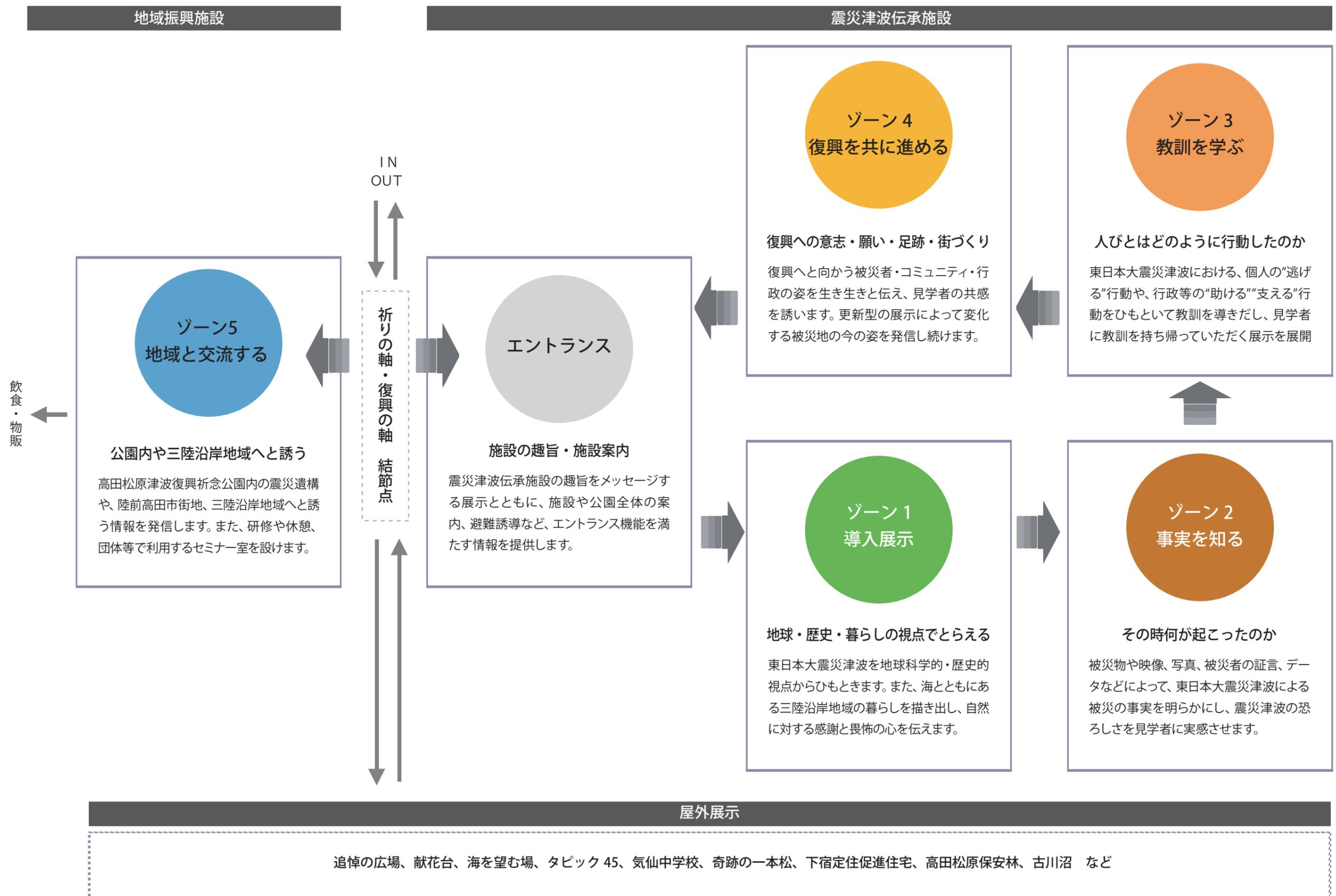
**震災津波を“自分事”と捉え命を守る教訓を持ち帰る展示**

- 事実の分析から教訓を導く展示  
事実（失敗事例含む）を分析し教訓を導き出す過程を展示化し、説得力を高め、見学者の心に深く刻みこみます。
- 震災津波がきたらどうする？ 考え 参加する展示  
震災津波に遭ったと想定させる問いを投げかけ、見学者の意見を引き出し、展示に反映する手法を採り入れます。
- 防災を文化としてとらえる展示  
震災津波を伝承してきた事例を伝え、防災を文化としてとらえ人びとの暮らしに防災意識を根付かせる視点を提示します。

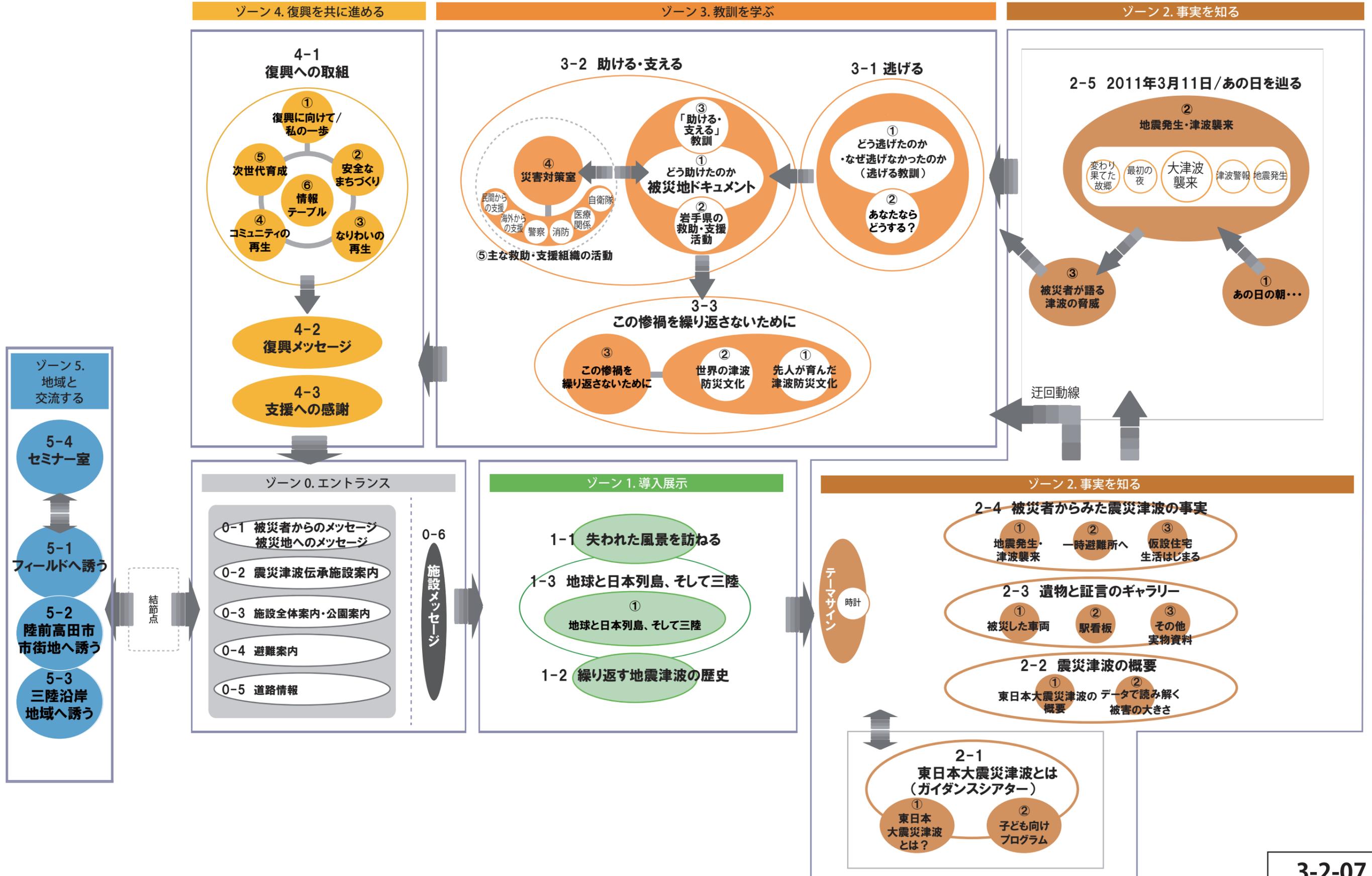
＜コンセプト4に対する展示の特色＞

**東日本大震災津波を忘れない未来に 三陸全体につなぐ展示**

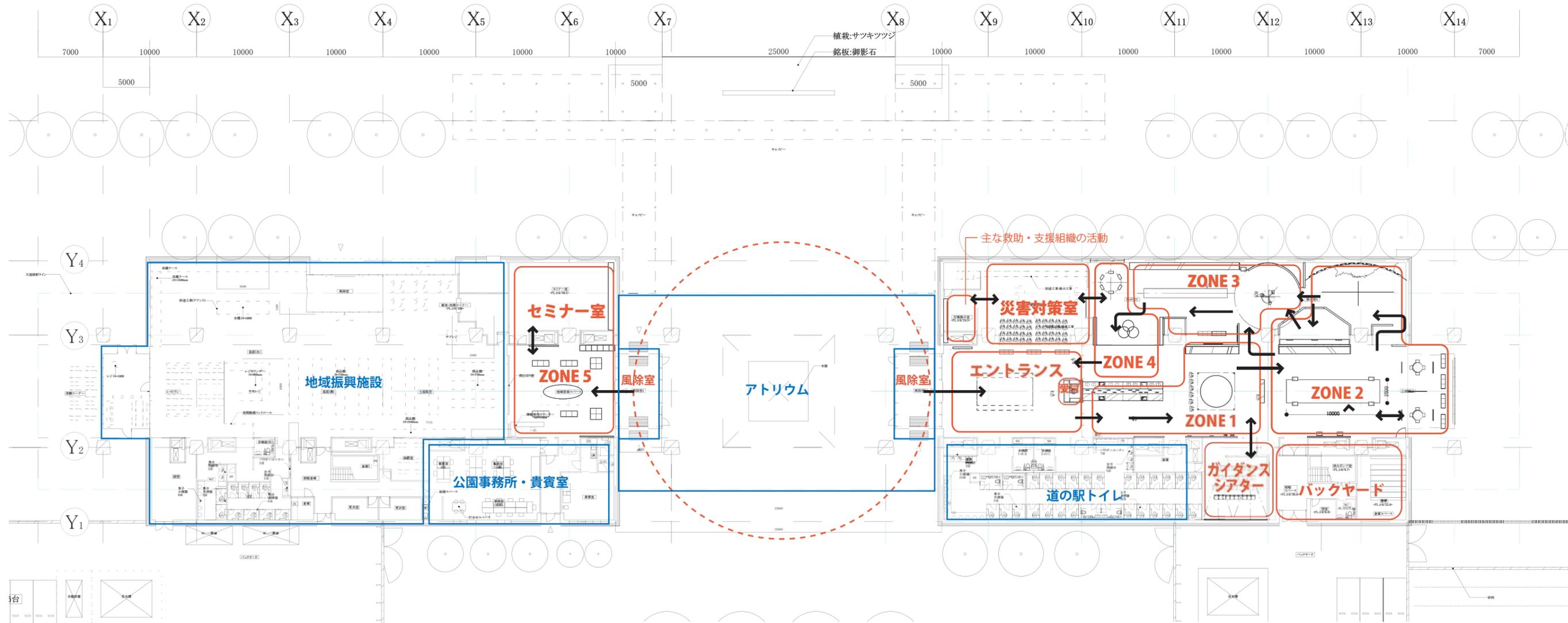
- 被災地の“いま”を伝え続ける更新型の展示  
変わりゆく被災地の状況、復興へと向かう姿を発信し続けていくために、更新性の高い展示とします。
- 感謝を伝え、応援する心を喚起する展示  
これまでの支援に対する感謝の心と、復興へと向かう被災地の姿を伝え、共感や応援する気持ちを喚起します。
- 陸前高田市内・三陸各地へ誘う展示  
各地の震災遺構、震災関連施設、復興状況を直接見ていただけるよう、現地へ誘導し交流を促す情報を発信します。



展示ストーリー構成



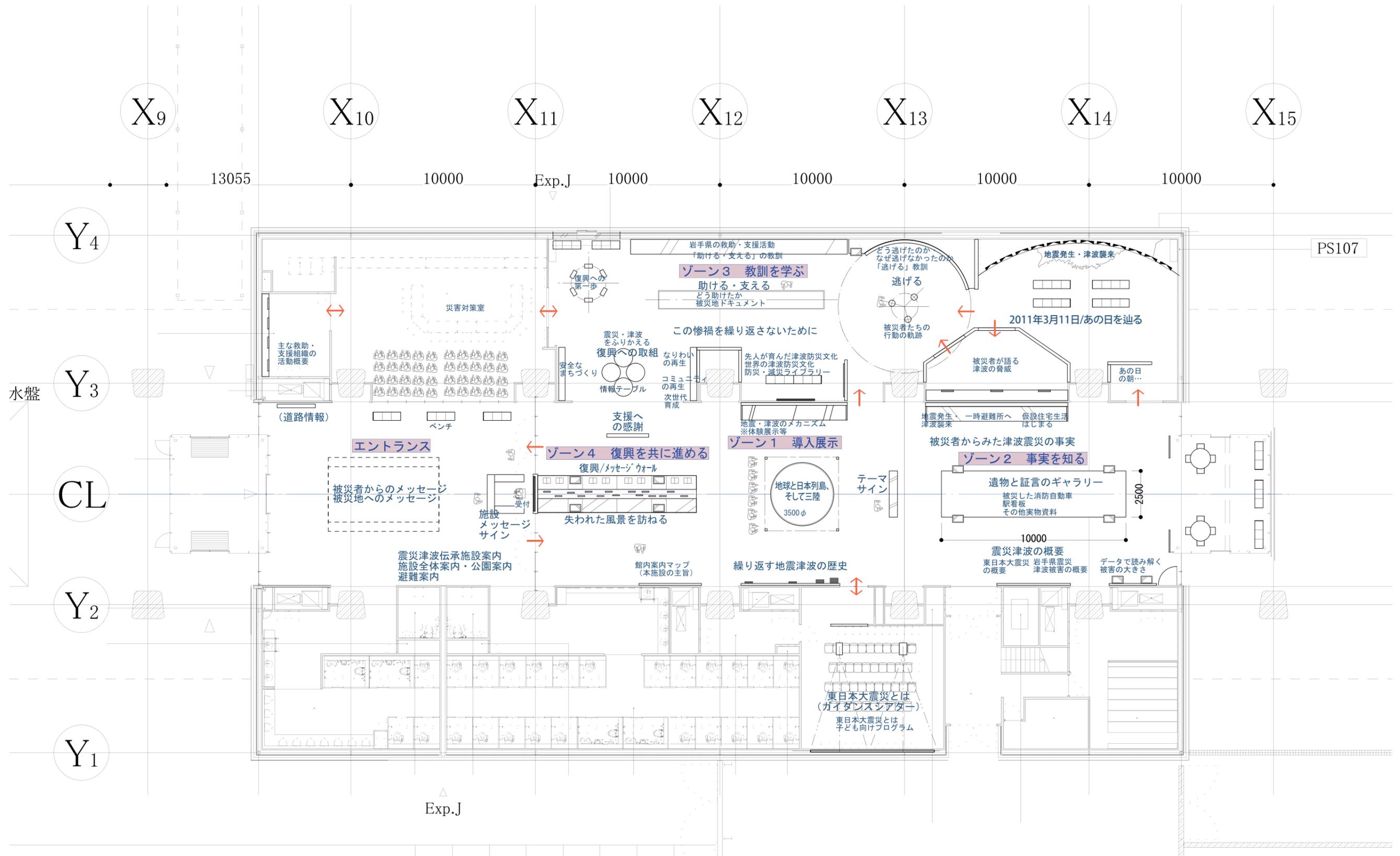
- ◆展示主動線幅、展示観覧スペースの基本的考え方
  - ・主動線については、W2500mm以上を基本とする  
(展示通過動線幅1500mm+立ち止まって展示を観覧する幅1000mm)
  - ※車いすがすれ違う動線幅(1800mm以上)も念頭に計画する
  - ・40名グループ(1クラス、団体バス1台相当)、一部20名を念頭に観覧動線の広さを設定する

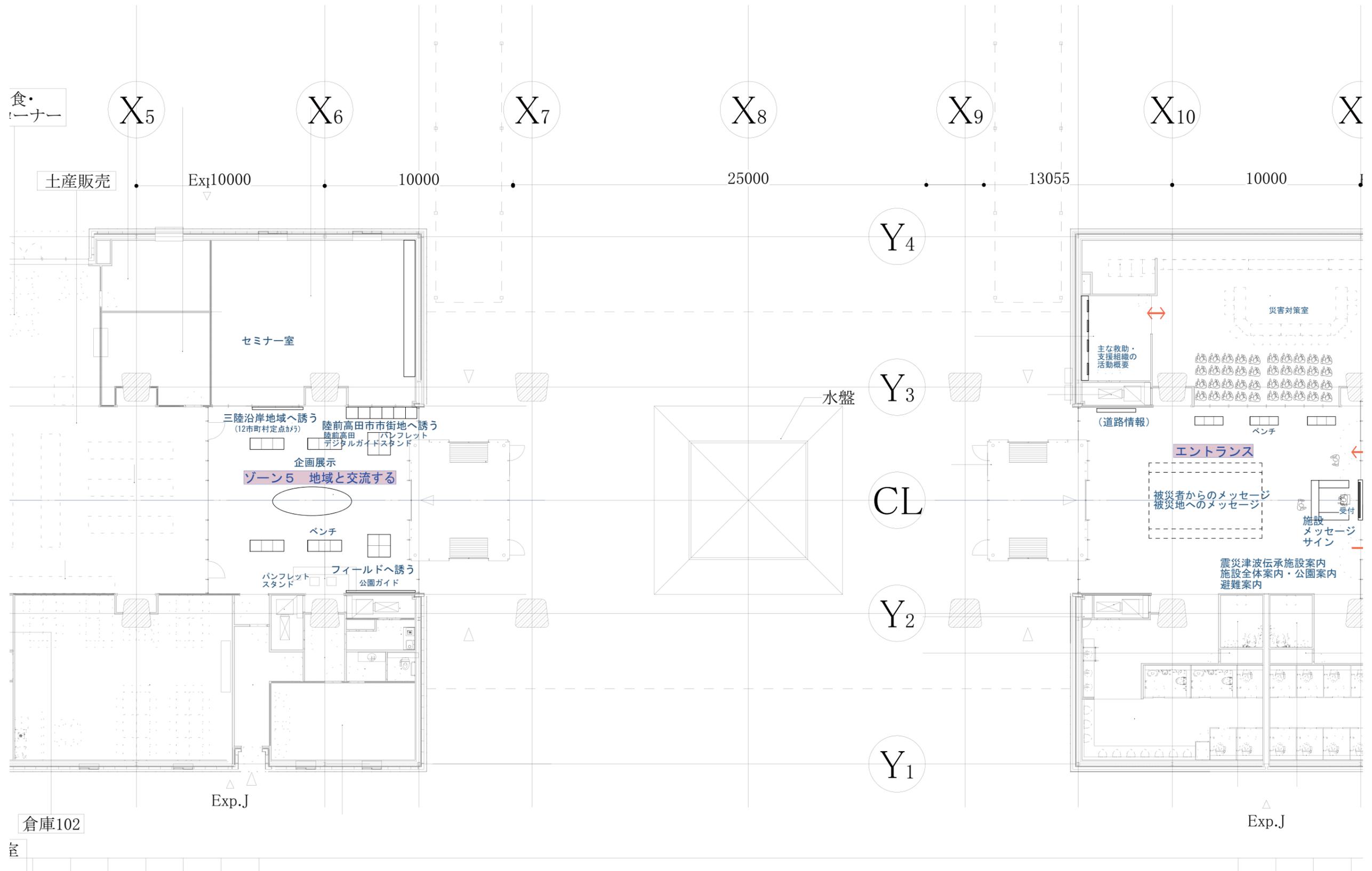


面積表

全体		各施設		諸室		ゾーン		備考
1階床面積	3580㎡	震災津波伝承施設	1475㎡	エントランス・風除室	195㎡	ゾーン1	135㎡	道の駅の休憩施設及び道路情報提供施設も兼ねる
				展示スペース	1145㎡	ゾーン2	415㎡	内)ガイダンスシアター100㎡
						ゾーン3	265㎡	内)災害対策室105㎡
						ゾーン4	100㎡	ゾーン5にも一部展示
						ゾーン5	230㎡	公園の休憩機能を兼ねる 内)セミナー室100㎡
				バックヤード	135㎡			
		道の駅トイレ	245㎡					
		公園事務所・貴賓室	180㎡					伝承施設の事務室も兼ねる
		地域振興施設	1050㎡					
		アトリウム	630㎡					左右建築間の屋根で覆われた空間

※建築設計中であり、上記面積は変更の可能性がある。





## ■情報解説の基本的な考え方

### 1、ユニバーサルデザインの視点に立った解説計画

東日本大震災津波という未曾有の災害を伝承していくことは、震災の経験者、非経験者、年齢、国籍など、異なる利用対象の属性に対応した解説情報の出し方や展示の手法、デザイン的な工夫が必要となってきます。

### 2、最新メディアと“人”による伝達の両軸に立つ解説計画

来館者の目的や属性に合わせて、必要な情報が適切に伝達されるように配慮し、最新のITメディアや、映像コンテンツを活用します。また、語り部さんなど、地域の方々に利用していただき、展示だけでは伝わらないきめ細やかな情報を「人」の介在により伝え、より理解度の高い展示を目指します。

## ■対象別の解説の工夫ポイント

**01**  
被災した方々への配慮

- 津波の映像など、被災した方々への配慮が必要な情報は、迂回動線を設ける。

**02**  
外国人対応  
多言語解説

- 多言語併記の解説(グラフィック)
- スマートフォンなどのアプリの開発/活用
- ワークシートの活用 など

※多言語は以下4カ国語を想定  
(英語、中国繁体字(台湾)、同簡体字(中国)、ハングル(韓国))

**03**  
子ども対応  
障害者対応

- 子ども向けに配慮のある解説内容(映像)  
・小学校低学年の団体学習向けコンテンツを用意する
- 情報のイラスト化やシーンジオラマなどで、解説を読まなくても理解しやすい工夫など
- ワークシートの活用 など
- ハンズオンや点字などの採用

**04**  
展示解説における  
ヒューマン  
コミュニケーション

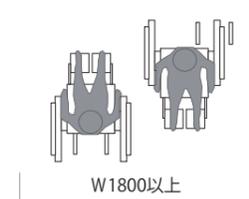
- 語り部や引率者、展示解説ガイドなどが説明できる十分な動線を確保する。
- コミュニケーションの場の設定  
(道の駅側の会議室を活用)
- スマートフォンなどのアプリの開発/活用で映像による解説配信

## ■ユニバーサルデザインの考え方

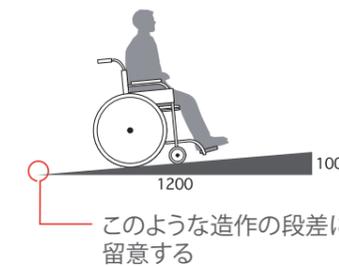
本施設を訪れるさまざまな人たちが、わけへだてなく安心して施設を利用でき、活用できることを目指します。車イス利用者や足腰の弱い人が不自由なく行動できるように、段差の解消、車イス動線の確保に十分配慮し、展示パネルの視認性、文字の大きさ、高さなど検証を行い適切なデザインを設計していきます。

### □通路の安全性・快適性

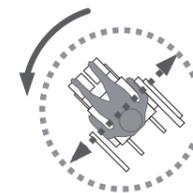
車椅子同士のすれ違い幅W1800以上。



段差が発生する場合は、スロープを設ける。勾配は1/12以上。

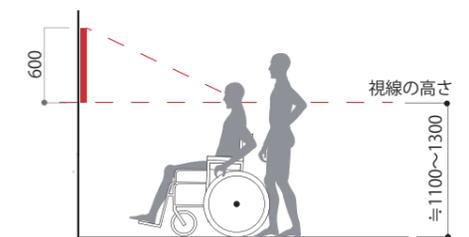


車椅子の回転直径φ1500以上。

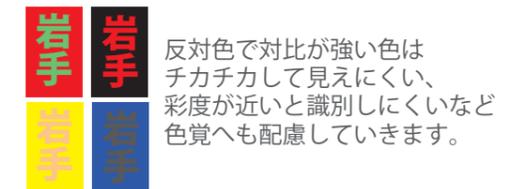


### □視認性の確保

車いすの座ごと入るように設計。壁面に近づいて触ることが可能です。



視認性の高い色味・明度・彩度の設定、及び相対的な色差でのメリハリ(色彩や照明での対応)



### □スマートフォンなど、最新メディアを活用

専用ソフトをダウンロードすることで、多言語や専門的な解説なども閲覧できる工夫を考えます。



震災津波伝承施設 展示構成リスト

大項目	中項目	小項目	想定されるコンテンツ	想定される展示手法・展示形態
ZONE0 エントランス	1. 被災者からのメッセージ 被災地へのメッセージ	①被災者からのメッセージ 被災地へのメッセージ	被災者からのメッセージ 被災地へのメッセージ	・デジタルインスタレーション
	2. 震災津波伝承施設案内	①震災津波伝承施設案内	震災津波伝承施設全体マップ 施設の主旨紹介 開館時間、閉館日の案内 注意事項等の案内 催し等の案内	・グラフィックパネル
	3. 施設全体案内・公園案内	①施設全体案内	施設全体のマップ 各施設の概要案内 各施設の開館時間・閉館日の案内 各施設の写真	・グラフィックパネル
		②公園案内	公園全体のマップ 園内施設の概要案内 園内各施設の写真 公園の開園時間・閉園日の案内	
	4. 避難案内	①避難案内	災害時の避難の呼びかけコピー 避難経路・場所を示すマップ 災害時の注意事項、等	・グラフィックパネル
	(5. 道路情報)	(①道路情報)	(既存情報発信コンテンツ)	(検索装置)
6. 施設メッセージ	①施設メッセージ	三陸の海の風景の映像・写真等 メッセージコピー	・映像演出	
ZONE1 導入展示	1. 失われた風景を訪ねる	①失われた風景を訪ねる ・失われた町やくらしの風景 ・被災者が語る失われた町の記憶	失われた町の風景写真 失われた町で営まれたくらしの写真 被災者が語る失われた町の記憶・思い出 失われた町を示すマップ、等	・写真と証言のウォール ・映像装置 ・思い出の品実物展示 ・グラフィックパネル、等
	2. 繰り返す地震津波の歴史	①繰り返す地震津波の歴史	津波災害からみた三陸の歴史年表 過去の津波災害の写真や絵図 津波の調査記録実物 過去の津波災害を物語るその他資料、等	・グラフィックパネル ・実物資料ケース(壁埋め込み) ・造形/過去の津波を物語る地層の剥ぎ取り ・映像装置 ・地層剥ぎ取り、等
	3. 地球と日本列島、そして三陸	①地球と日本列島、そして三陸	地球の活動と日本列島及び三陸の大地の成り立ち 日本周辺及び三陸沖の海底の姿 日本及び三陸の地震・津波発生の背景 三陸を襲った津波の到達エリア 東日本地震発生の経緯、等	・大型映像
ZONE2 事実を知る ～その時何が起こったのか～	0. テーマサイン	①テーマサイン	震災津波により動きを止めた時計 被災直後の風景イメージ メッセージコピー	・シートグラフィック ・実物＝被災した時計数個、等
	1. 東日本大震災とは (ガイダンスシアター)	①東日本大震災とは(一般向け) ・東日本大震災の経緯と概要 ・津波のメカニズムと脅威 ・各地域の被害状況 ・展示全体の案内、等	東日本大震災の各種映像 東日本大震災の各種写真 CG画像 解説音声、等	・ガイダンスシアター(ソフトは2本整備) ・上映サイクルサイン ・スクリーン造作+イス
②子ども向けプログラム ・東日本大震災の経緯と概要 ・津波のメカニズムと脅威 ・各地域の被害状況、等		東日本大震災の各種映像 東日本大震災の各種写真 CG画像、等		

大項目	中項目	小項目	想定されるコンテンツ	想定される展示手法・展示形態
	2. 震災津波の概要	①東日本大震災津波の概要 ・東日本大震災津波の概要 ・岩手県震災津波被害の概要	東日本大震災津波の概要テキスト 東日本大震災の写真や図、グラフ、等 岩手県震災津波の概要テキスト 岩手県震災津波の写真や図、グラフ、等	・壁面グラフィック ・壁面グラフィック
		②データで読み解く被害の大きさ ・犠牲者・行方不明者の数 ・住宅被害のデータ ・産業被害のデータ ・その他各種データ	関連データ、等	・壁面グラフィック ・映像装置(検索装置)
		③いわて震災津波アーカイブ	震災津波アーカイブ	・情報検索装置
	3. 遺物と証言のギャラリー	①被災した車両	車両実物 被災前の車両写真・映像 解説 関連する証言	・実物展示 ・グラフィックパネル ・映像装置、等
		②駅看板	駅看板実物 被災前の駅の様子を示す写真・映像 解説 関連する証言	・実物展示 ・グラフィックパネル ・映像装置、等
		③その他実物資料	実物 解説 被災前の資料について示す写真・映像 関連する証言	・実物展示 ・グラフィックパネル ・映像装置
	4. 被災者からみた震災津波の事実	①地震発生・津波襲来 ・地震発生 ・津波襲来	解説・証言・写真 関連データ、等 震災前と後の写真	・壁面グラフィック ・実物展示、等
		②一時避難所へ ・避難所生活 ・家族を探して ・災害弱者 ・全国からの救援物資 ・行政が麻痺した避難所運営 ・在宅被災者のくらし ・コミュニティ避難 ・犯罪の発生、等	解説・証言・写真 一時避難所の縮尺模型 生活シーンを示すスポットジオラマ 実物(張り紙、物資など)	・壁面グラフィック ・一時避難所の縮尺模型 ・シーン造形 ・実物展示(張り紙、物資など)、等
		③仮設住宅生活はじまる ・職の問題 ・学校再開 ・住宅再建に向けて ・コミュニティ崩壊と孤独死 ・PTSD、等	解説・証言・写真 仮設住宅関連資料 実物展示 スポットジオラマ、等	・壁面グラフィック ・仮設住宅の縮尺模型 ・実物展示(張り紙、物資など?) ・映像装置 ・シーン造形、等

大項目	中項目	小項目	想定されるコンテンツ	想定される展示手法・展示形態
	5. 2011年3月11日/あの日を辿る ※見る意志のある人だけが入れられる空間とする。	①あの日の朝・・・	証言 当日の写真、TV画像、新聞、等	・壁面グラフィック ・映像装置、等
		②地震発生・津波襲来 ・地震発生 ・津波警報 ・大津波襲来 ・最初の夜 ・変わり果てた故郷	各段階の写真や映像 各段階の証言 各段階のツイッター 空から見た津波襲来CG、等	・映像装置 ・地形造形 ・照明演出、等
		③被災者が語る津波の脅威 ・被災者が語る津波の脅威	証言 関連写真や映像 証言映像 イメージ図 関連するモノ、等	・グラフィックパネル ・映像装置 ・実物展示 ・壁面引出造作、等
ZONE3 教訓を学ぶ ～人々はどのように行動したか～	1. 逃げる	①どう逃げたのか・なぜ逃げなかったのか (逃げる教訓)	逃げた人の証言と行動 逃げなかった人の証言と行動 犠牲者の行動軌跡データ、等	・グラフィックパネル ・行動の軌跡データベース(映像装置)
		②あなたならどうする？	避難行動に関する問いかけ 想定される回答 教訓カード、等	・問いかけグラフィック ・回答グラフィック ・教訓メッセージカード、等
	2. 助ける・支える	①どう助けたのか 被災地ドキュメント ・東北地方整備局の動き ・自衛隊の動き ・DMATの動き ・消防の動き ・警察の動き ・役場等の動き ・地元消防団の動き ・全国からの救助隊の動き ・友だち作戦の動き、等 ・ボランティアの動き ・その他の動き、等	救助・支援活動に関する動画や写真 救助・支援活動の経緯を示す図表 救助・支援者の証言 救助・支援された側の証言 支援された自治体首長映像 救助活動に関するモノ 救助活動を象徴するものの造形 全国・世界からの義捐金データ	・テーブル面出力グラフィック ・映像装置 ・シーン造形、等
		②岩手県の救助・支援活動 ・県の救助・支援活動の経緯 ・救助・支援活動を物語る資料、等	県の救助・支援活動の経緯 活動状況を示す模造紙資料 救助・支援者の証言 遠野市の後方支援活動	・グラフィックパネル ・救助・支援活動時の記述を残す模造紙資料等のレプリカ展示 ・壁面ケース
		③「助ける・支える」の教訓	経験を通じ培った「助ける・支える」の教訓	・グラフィックパネル ・映像装置
		④災害対策室 ・防災危機管理について考える ・災害対策室の三日間、等	既存映像ソフト(東北地整の三日間) 当時映し出された映像 当時のメモ、くしの歯作戦図 みちのく号撮影映像、等	・災害対策室再現空間 ・映像演出 ・当時のメモ等のレプリカ展示 ・グラフィックパネル
		⑤主な救助・支援組織の活動 ・自衛隊 ・医療関係 ・消防 ・警察 ・海外からの支援 ・民間からの支援	主な救助・支援組織と各組織の概要 主な救助・支援組織が実施した活動の紹介 制服や道具等実物資料 救助・支援者の証言、等	・グラフィックパネル ・等身大切り出し ・映像装置 ・壁面埋め込み 実物展示ケース

大項目	中項目	小項目	想定されるコンテンツ	想定される展示手法・展示形態	
	3. この惨禍を繰り返さないために	①先人が育んだ津波防災文化 ・津波石・津波災害を伝える石碑等 ・「津波てんでんこ」を考える ・津波に強いまちづくり ・防災に尽力した人々 ・防災支援ネットワーク ・自主防災組織 ・子どもたちのための防災教育、等	津波石・石碑の紹介 「津波てんでんこ」の意味 防災教育の紙芝居や演劇事例、等 防災まちづくりの例(吉浜など) 山奈宗真、山下文男、等 三陸地域の自主防災組織、等	・グラフィックパネル ・映像装置  ・参加型アンケート集積メディア映像装置	
		②世界の津波防災文化 ・インドネシアの唄 等 ・ハワイ・太平洋津波センター研究成果 等	・インドネシアの唄 ・世界の関連機関等の研究成果、等	・映像装置 ・グラフィックパネル、等	
		③この惨禍を繰り返さないために ・何が足りなかったのか ・今後何をなすべきか	専門家、被災者へのインタビュー映像 被災者たちの声	・グラフィックパネル ・映像装置(証言映像用モニター)、等	
ZONE4 復興を共に進める ～復興への力強い意志を伝える～	1. 復興への取組 ～多様な主体による取組～	①復興に向けて/私の一歩 ・復興に向けて動き出した被災者の証言	被災者へのインタビュー映像	・映像装置 ・グラフィックパネル	
		②安全なまちづくり ・復興道路の整備 ・鉄道の整備 ・防潮堤の整備 ・高台団地の整備、等	復興道路の整備概要 鉄道の整備概要 防潮堤の整備概要 高台団地の整備概要、等	・グラフィックパネル ・映像装置	
		③なりわいの再生 ・地元企業による復興支援活動 ・ソーシャルビジネスにおける復興支援活動	地元企業による復興支援活動 ソーシャルビジネスにおける復興支援活動	・グラフィックパネル ・映像装置	
		④コミュニティの再生 ・生活再建支援 ・景観形成 ・お祭りの復活、等	生活再建支援 景観形成 お祭りの復活、等	・グラフィックパネル ・映像装置	
		⑤次世代育成 ・次世代への防災教育 ・子どもたちの思い、等	次世代への防災教育 子どもたちの思い、等	・グラフィックパネル ・映像装置	
		⑥情報テーブル ・復興の画期的事例や取組、等	復興の画期的事例や取組、等	・グラフィックパネル ・実物展示、等	
		2. 支援への感謝	①感謝の気持ち・心・言葉	感謝の気持ち・心・言葉 世界の言葉で「ありがとう」	・グラフィックパネル
		ZONE5 地域と交流する ～三陸沿岸地域へと誘う～	1. フィールドへ誘う	①公園ガイド	フィールドの全体マップ 遺構等の見どころ紹介
②パンフレットスタンド	公園案内パンフレット、等			・パンフレットスタンド	
2. 陸前高田市市街地へ誘う	①陸前高田ガイド		陸前高田市の全体マップ 各種観光情報	・フィールドデジタルサイネージ 画面タッチ操作モニター	
	②パンフレットスタンド		陸前高田市の観光案内パンフレット、等	・パンフレットスタンド	
3. 三陸沿岸地域へ誘う	①三陸ガイド		三陸の全体マップ 沿岸各地の各種震災伝承施設や観光の情報	・フィールドデジタルサイネージ タッチモニター	
	②三陸復興定点観測		三陸12市町村復興定点観測写真	・映像装置	
	③三陸誘いディスプレイ		時宜に即した三陸情報(随時展示更新)	・ディスプレイテーブル(随時展示更新)	

大項目	中項目	④パンフレットスタンド 小項目	三陸各地の観光案内パンフレット、等 想定されるコンテンツ	パンフレットスタンド 想定される展示手法・展示形態
	4. セミナー室	①セミナー室	各種セミナー室機能 壁全面ホワイトボード 簡易展示機能、等	・プロジェクター ・テーブル+イス ・ピクチャーレール ・ホワイトボード壁、等
		②震災・復興図書コーナー ・開架 ・閉架	震災津波関連書籍各種 復興関連書籍各種 各市町村震災津波関連資料 各市町村の新旧ハザードマップ、等	・ライブラリー什器  ・各種関連資料・書籍、等
その他	1. 伝承キット	①伝承キット	伝承キット	・紙芝居、写真シート、津波の高さメジャー、等
	2. 多言語解説タブレット	①多言語解説	多言語解説	・タブレット端末 ・多言語解説ソフト
	3. 各種解説・学習シート	①研究者向け解説シート	研究者向け解説	・学習シートPDF
		②防災リーダー向け解説シート	防災リーダー向け解説	
		③外国人向け解説シート	外国人向け解説	
		④小学生向け解説・学習シート	小学生向け解説・学習コンテンツ	
		⑤中学生向け解説・学習シート	中学生向け解説・学習コンテンツ	
	4. 防災・避難案内シート	①日本語版防災・避難案内シート	日本語版防災・避難案内	
②外国語版防災・避難案内シート		外国語版防災・避難案内		
5. 外部遺構サイン 4ヶ所	①外部遺構サイン	・グラフィック解説	・グラフィック+スタンド造作(基礎あり)	
6. 出前学習キット一式	①出前学習キット	・パネル+DVD	・パネル10枚+DVD+学習シート	

## 2. 展示計画

---

ねらい

0-1① 被災者からのメッセージ 被災地へのメッセージ

- ・震災津波伝承施設のエントランス（顔）として、当施設を訪れた人々だけでなく入館を目的としない人々にも、当施設がどのような施設であるのか、その趣旨を感じ取ってもらうことを目的とします。

0-2① 震災津波伝承施設案内 0-3 ①施設全体案内 ②公園案内  
0-4① 避難案内 0-5① 道路情報

- ・施設のエントランスとして必要な施設案内などエントランス機能を満たす情報も用意します。

アイテム詳細説明

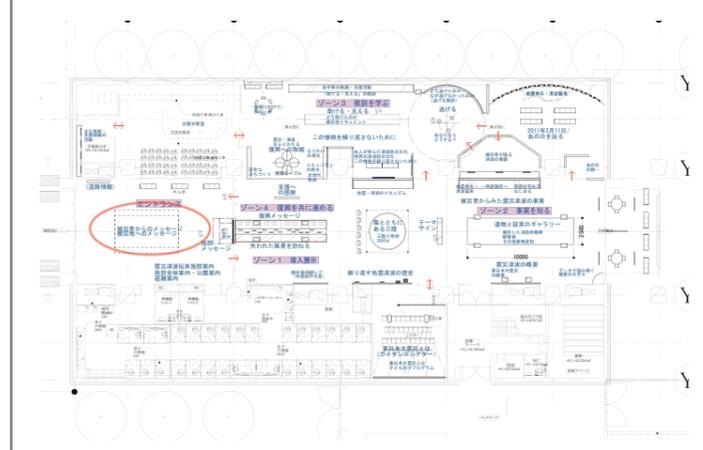
0-1① 被災者からのメッセージ 被災地へのメッセージ

- ・被災した方々の思い（二度とこの惨禍を繰り返さないために等）や、支援への感謝の思いなど、被災者からのメッセージが常に表示されるものとします。
- ・また、訪れた人々からの被災地への思い、メッセージを随時入力することができるものとし、被災地へのメッセージも常に表示されるものとします。  
(被災地へのメッセージは一定期間ごとに更新されていく形とします)

0-2① 震災津波伝承施設案内 0-3 ①施設全体案内 ②公園案内  
0-4① 避難案内 0-5① 道路情報

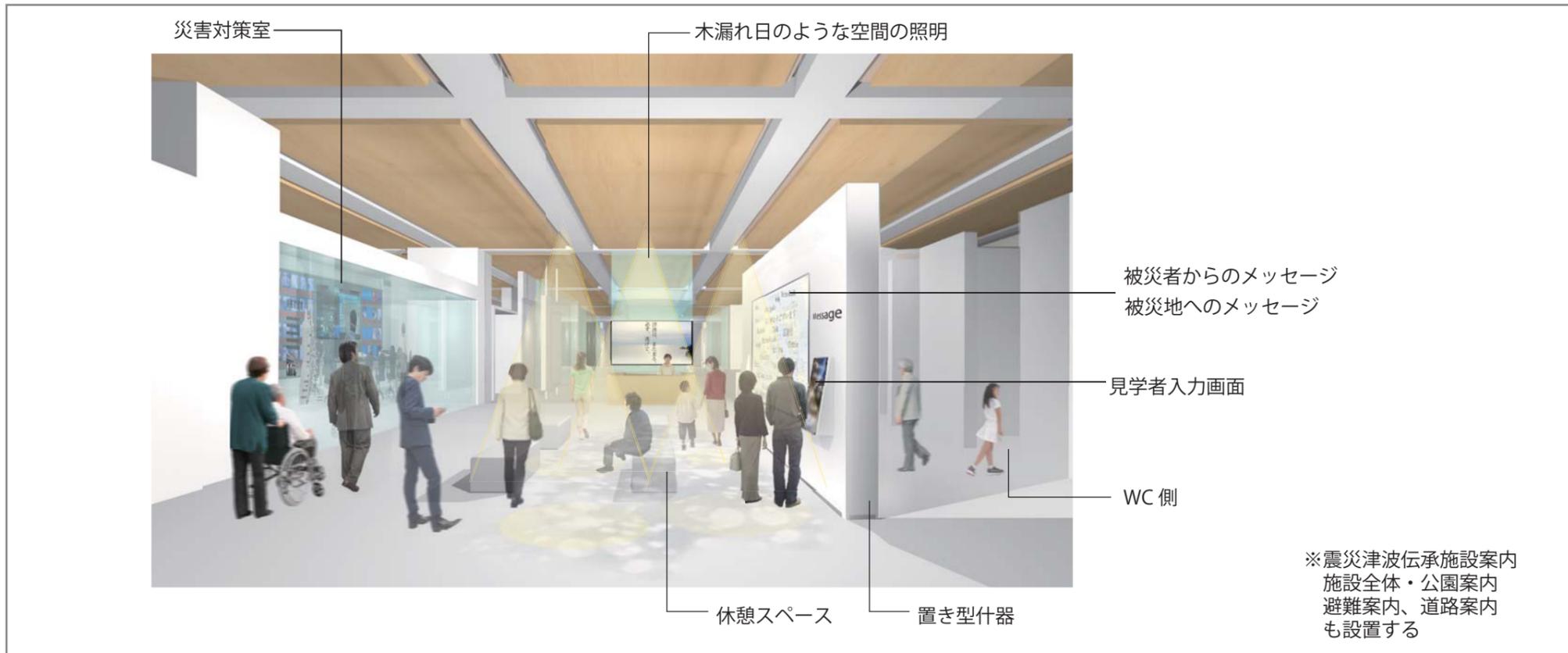
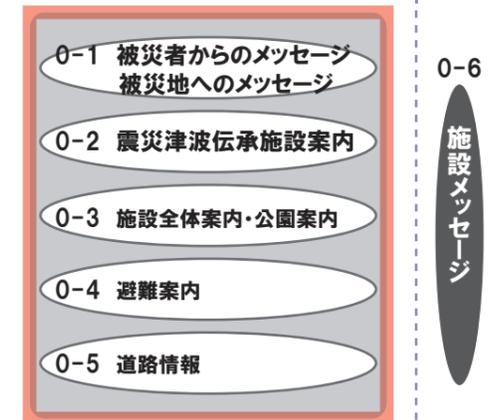
- ・施設案内とともに、緊急時の避難案内も表示します。

Key Plan



展示構成

エントランス



※震災津波伝承施設案内  
施設全体・公園案内  
避難案内、道路案内  
も設置する

展示解説資料、演出展開など

参考イメージ資料

特記

ねらい

0-6① 施設メッセージ

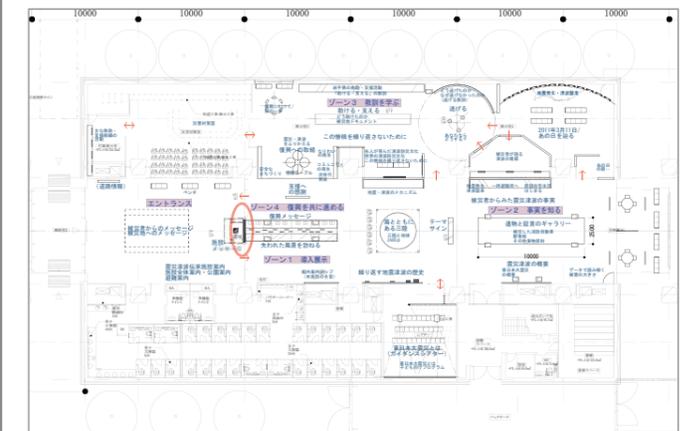
- ・ 展示への導入部として、震災津波災害の事実や教訓を伝えるに先立ち、訪れた人々に本展示を貫く趣旨、展示を通して考えて欲しいことをシンボリックに伝えることをねらいとします。
- ・ 合わせて、被災地の人々はじめ、日本人は地震・津波など過酷な自然災害を宿命としながらも必ず立ち上がり、「海（自然）」とともに生き、日々の暮らしを積み重ねてきた姿を伝えます。

アイテム詳細説明

0-6① 施設メッセージ

- ・ テーマサインとして、「震災津波伝承施設展示等基本計画」において設定されたテーマ（問いかけ）「いのちを守り、海と大地とともに生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために」を示します。
- ・ 映像により、穏やかな海（通常の海）の表情とともに、震災津波が多い国土において、繰り返し立ち上がってきた人々の姿を描き出します。

Key Plan



展示構成

ゾーン 1. 導入展示

- 0-1 被災者からのメッセージ  
被災地へのメッセージ
- 0-2 震災津波伝承施設案内
- 0-3 施設全体案内・公園案内
- 0-4 避難案内
- 0-5 道路情報

0-6  
施設メッセージ

特記



マルチモニター

キーワード例

- ・ 先人たちも繰り返し襲い来る津波に繰り返し立ち上がってきた
- ・ 「まさか」から「ひょっとして」へ、いや、必ず、津波はまた来る。

など。

展示解説資料、演出展開など

参考イメージ写真



ねらい

1-1 ① 失われた風景を訪ねる

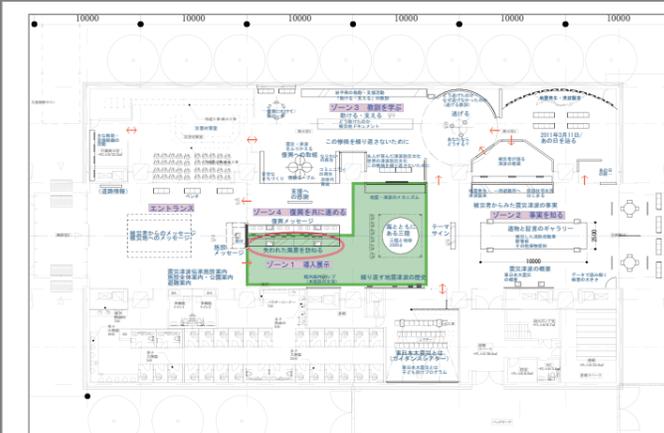
- ・震災で失われてしまった三陸沿岸地域の街並や暮らしの風景を紹介します。
- ・時に津波という災厄をもたらすものの、豊かな恵みももたらす三陸の海と人々が常に近いものであることが理屈抜きに感じられることを目指します。
- ・失われた風景の背後にある、人々の海に対する感謝や人知を超えた自然に対する畏怖の心についても伝えることを目指します。
- ・県の施設として、かつてそこにあった故郷の姿を記憶し、記録していくことも展示の役割の一つです。

アイテム詳細説明

1-2 ① 失われた風景を訪ねる

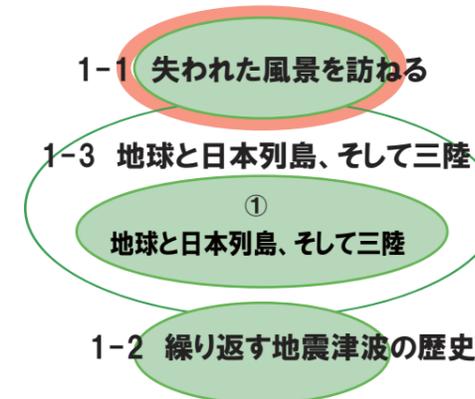
- ・映像により、三陸沿岸 12 市町村各地の街並や風景、人々の暮らしの姿を紹介します。
- ・“海とともに生きる”三陸の風景や人々の営み等を写し出した写真も集め紹介します。
- ・特に、被災した人々の“ことば”(ことばに込められた思い)を重視した展開を図ります。

Key Plan



展示構成

ゾーン 1. 導入展示



特記



展示解説資料、演出展開など

ねらい

1-2 ① 繰り返す地震津波の歴史

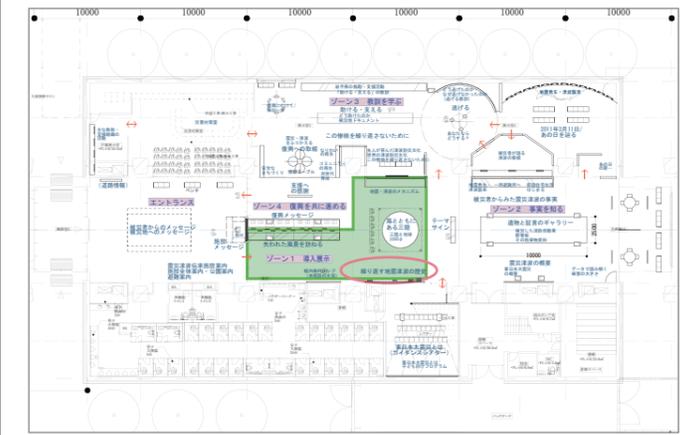
- ・ 紀元前から日本を襲って来た津波の歴史を示し、日本、中でも三陸地域が津波の常襲地帯であることを印象づけます。
- ・ 三陸地域を中心に日本列島全体にも視野を広げ、震災・津波と向き合い、乗り越えてきた人・社会の歩みを浮き彫りにします。
- ・ 今回の地震津波が1000年に一度の規模といわれる所以となった869年の巨大津波「貞観津波」から「東日本大震災津波」へと続くタイムスケールや、数十年に一度という襲来頻度についても感じ取れるものとします。
- ・ また、稲むらの火の伝説を生んだ安政南海地震津波や奥尻島を襲った北海道南西沖地震津波等、日本全国の主要な津波災害についても紹介します。

アイテム詳細説明

1-2 ① 繰り返す地震津波の歴史

- ・ 三陸地域を中心に日本列島全体を視野に入れて地震津波を時系列で示し、その多さを通覧できるものとします。
- ・ 各地震津波の規模や被害の概要を分かりやすく示します。
- ・ 地層サンプル（実物）や、歴史資料（「日本三代実録」等）、ビジュアル資料（風俗画報、記録写真等）等も随時組み合わせて紹介します。
- ・ 特に規模の大きかったものについてはそれを別立て（一段前へ出す等）グラフィックにするなど、印象的に伝えるよう工夫します。
- ・ また、津波被害からその都度立ち上がって来た姿が感じられるグラフィックも組み入れます。
- ・ 地震以外にも、津波の原因についてもここで触れるものとします。

Key Plan



展示構成

ゾーン 1. 導入展示



特記



繰り返し襲来する津波とそれを乗り越えてきた日本・三陸の姿を伝える

展示解説資料、演出展開など



震災パネル 東日本大震災の記憶をいつまでも「忘れない。」  
国土交通省東北地方整備局

ねらい

1-3 ① 地球と日本列島、そして三陸

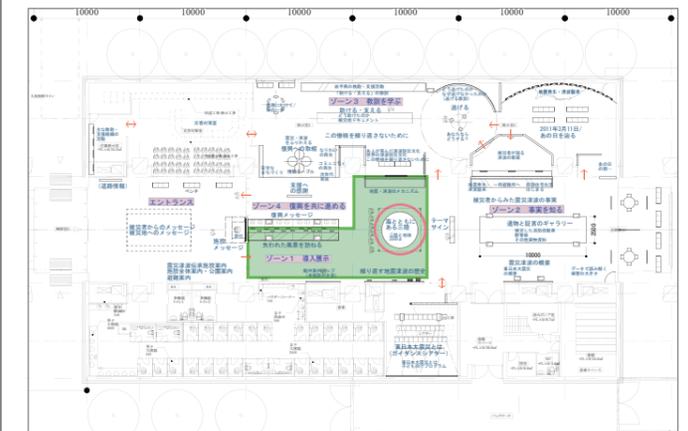
- 津波の多くは地殻変動などの地球規模の動きによって引き起こされることから、先ず、地球は常に動いているという事実、日本列島及び三陸地域も地球規模の動きとつながっていることを来館者に感じ取ってもらうことを一つのねらいとします。
- 地球規模の動き（プレート運動等）と、日本列島及び三陸周辺の動きを合わせて見ることで、地震が多発する日本や三陸沿岸地域が津波常襲地帯であることを理解できるようにします。
- また、広大な 3.11 の地震震源域を示し、以降の展示の導入としての役割を果たします。
- 三陸地域全体を俯瞰でき、そもそもどのような所なのかを知ることもねらいの一つです。

アイテム詳細説明

1-3 ① 地球と日本列島、そして三陸

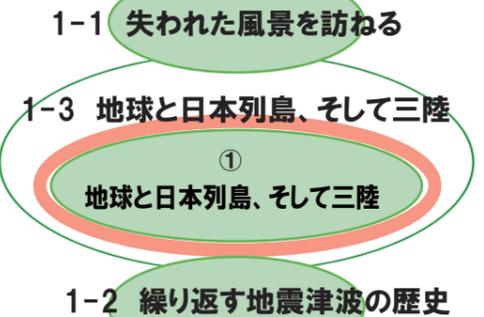
- 海底部分までを含む三陸沿岸地域（岩手県～宮城県、福島県の一部）の地形模型（白色単色模型）に映像を投射し、地殻変動や海溝の様子、日本及び三陸の大地の成り立ちやそこでの津波災害の特徴を示すとともに、4つのプレート上にある日本列島の姿、地球規模での地震津波の影響（チリ津波等）等を分かりやすく紹介します。
- 映像により、三陸沿岸を中心とする地震津波の震源についても（判明している限りのものについて）表現、特に東日本大震災の震源域にスポットを当て、震災津波の発生とその後の太平洋地域への広がり等についても示します。

Key Plan

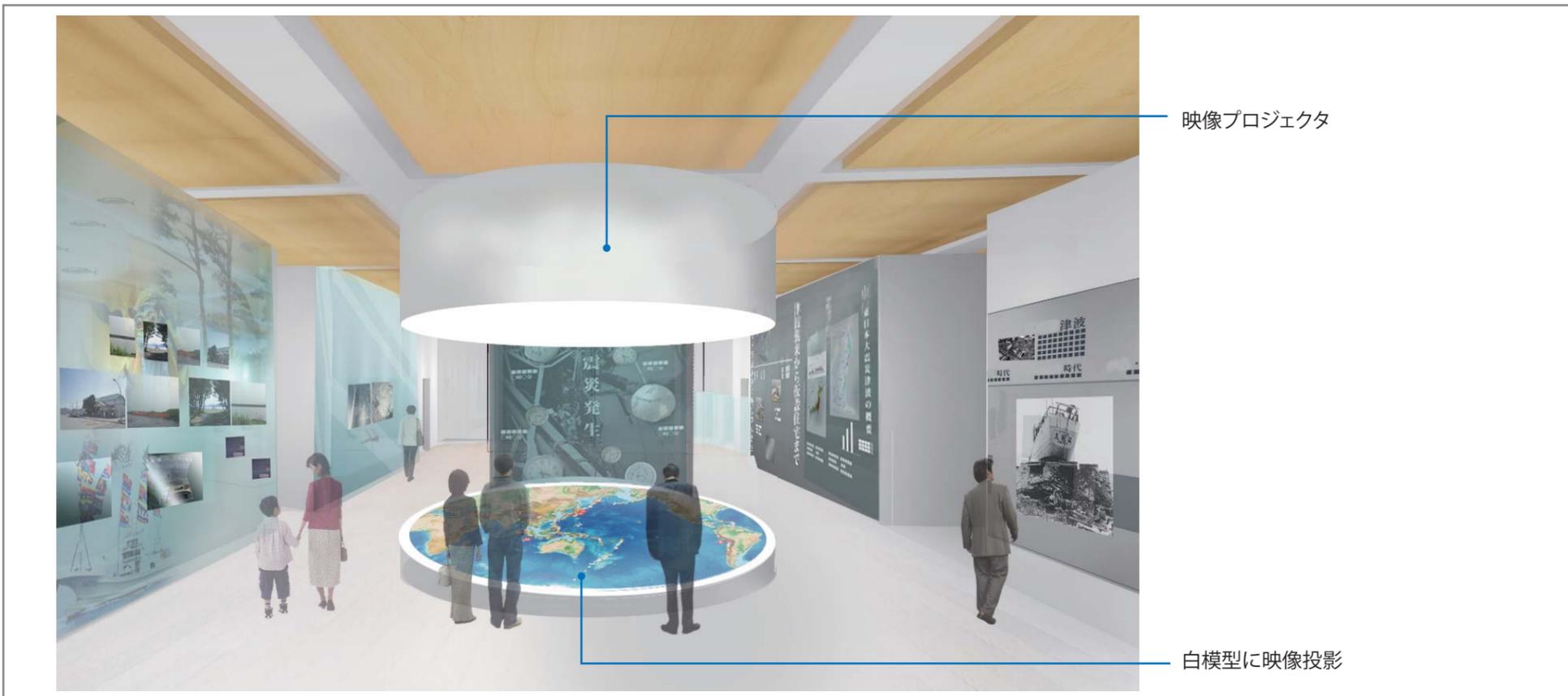


展示構成

ゾーン 1. 導入展示



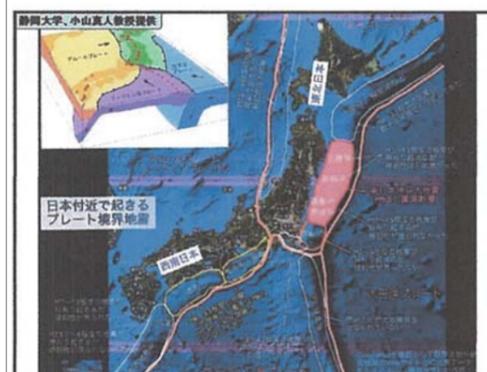
特記



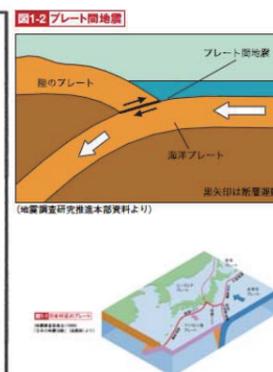
展示解説資料、演出展開など



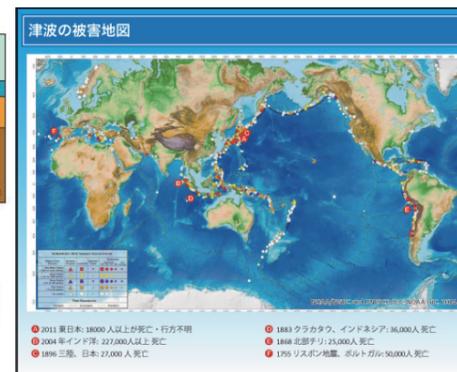
富士山樹空の森 ビジターセンター



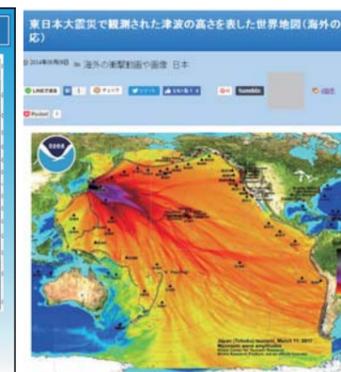
平成の大津波から5年～復興はどこまで進んだか 齊藤先生資料より



岩手県東日本大震災津波の記録 P.15 企画・発行 岩手県



世界の津波災害地図(外務省HP) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol140/index.html>



アメリカ海洋気象庁 <http://blog.livedoor.jp/kaigainoomaera/archives/40095558.html>

ねらい

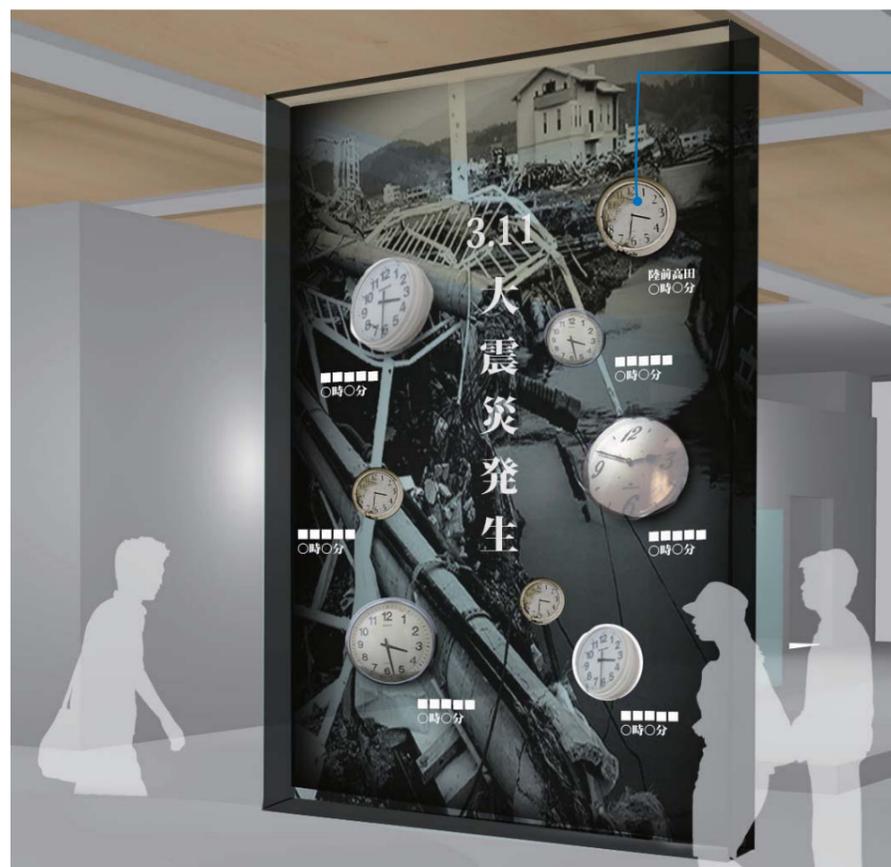
2-0 ① テーマサイン

- ここから3.11（東日本大震災津波）のゾーンに入ることを示します。
- 3.11 その地震・津波に襲われた瞬間を感じさせることをねらいとします。

アイテム詳細説明

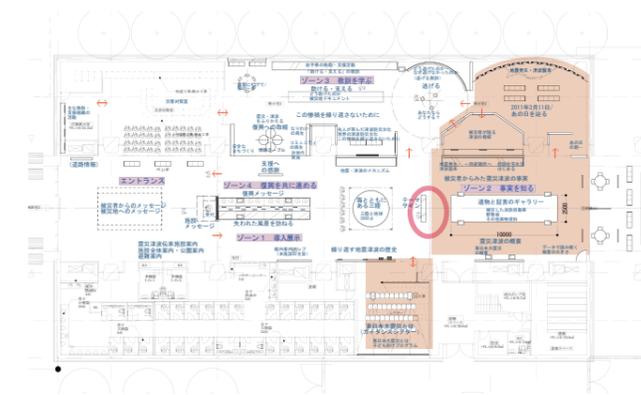
2-0 ① テーマサイン

- 2011年3月11日、大震災に襲われたその時、を感じられるよう、大震災発生によって止まった時計（実物）を象徴的に展示します。



被災した時計

Key Plan



展示構成

ゾーン 2. 事実を知る

2-4 被災者からみた震災津波の事実

- ① 地震発生・津波襲来
- ② 一時避難所へ
- ③ 仮設住宅生活はじまる

2-3 遺物と証言のギャラリー

- ① 被災した車両
- ② 駅看板
- ③ その他実物資料

2-2 震災津波の概要

- ① 東日本大震災津波の概要
- ② データで読み解く被害の大きさ



特記

展示解説資料、演出展開など

展示物候補リスト(国交省道路部より)



鶉住居小学校 (釜石市) 40\*40



道の駅 上品の郷



道の駅 遠野 風の丘



気仙沼国道維持出張所



山下第二小学校



道の駅 そうま

ねらい

2-1 ① 東日本大震災津波を知る

- 一般来館者向けに、東日本大震災津波の全体像と被害の概況、科学的な視点から見た本震災津波のメカニズム等、東日本大震災津波の概要を伝えます。
- 展示全体を通じて学んでもらいたいテーマを問いかけ、展示を観覧する目的意識の醸成を図ることをねらいとします。
- 津波の怖さを知ってもらうため、「津波の速さ」や「津波の威力（破壊力）」を伝えることも意図します。

2-1 ② 子ども向けプログラム（団体利用を想定）

- 成長過程にある子どもの心の負担や理解度を考慮し、子ども用として、分かりやすく東日本大震災津波について伝えることを目指します。
- 津波の怖さを知ってもらうため、「津波の速さ」や「津波の威力（破壊力）」を伝えることも意図します。
- 津波は恐ろしいものだという事、とにかく高いところに逃げなければいけない、ということを中心にとどめてもらうことを大きなねらいとします。

アイテム詳細説明

2-1 ① 東日本大震災津波を知る

- 震災津波の経緯や概要、各地の被害の状況とともに、地震津波の原因、リアス式海岸における被災の特徴など科学的視点からも分かりやすく解説、さらに被災者の証言なども交え、多角的な視点から東日本大震災津波の全体像をひもときます。
- 津波の速さ、威力を示す映像も加えます。
- 大型映像により、津波の迫力や恐ろしさを体感的にも感じ取れるものとしします。

2-1 ② 子ども向けプログラム（団体利用を想定）

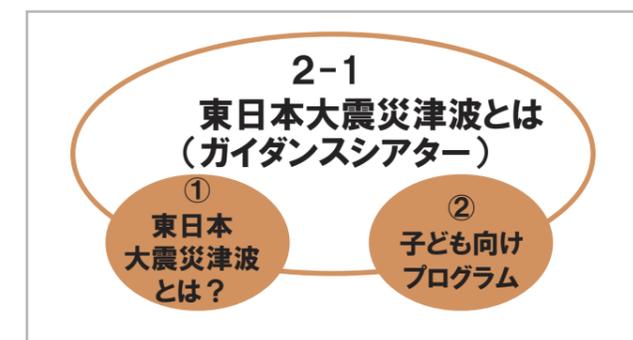
- 震災津波の経緯や概要、各地の被害の様子などとともに、津波のメカニズムについても映像表現により分かりやすく解説します。
- 津波の速さ、威力を示す映像も加えます。
- 被災者の証言なども交え、子どもへの心理的影響に配慮しつつ、津波の恐ろしさ、とにかく逃げることの重要性が伝わるよう工夫します。

Key Plan



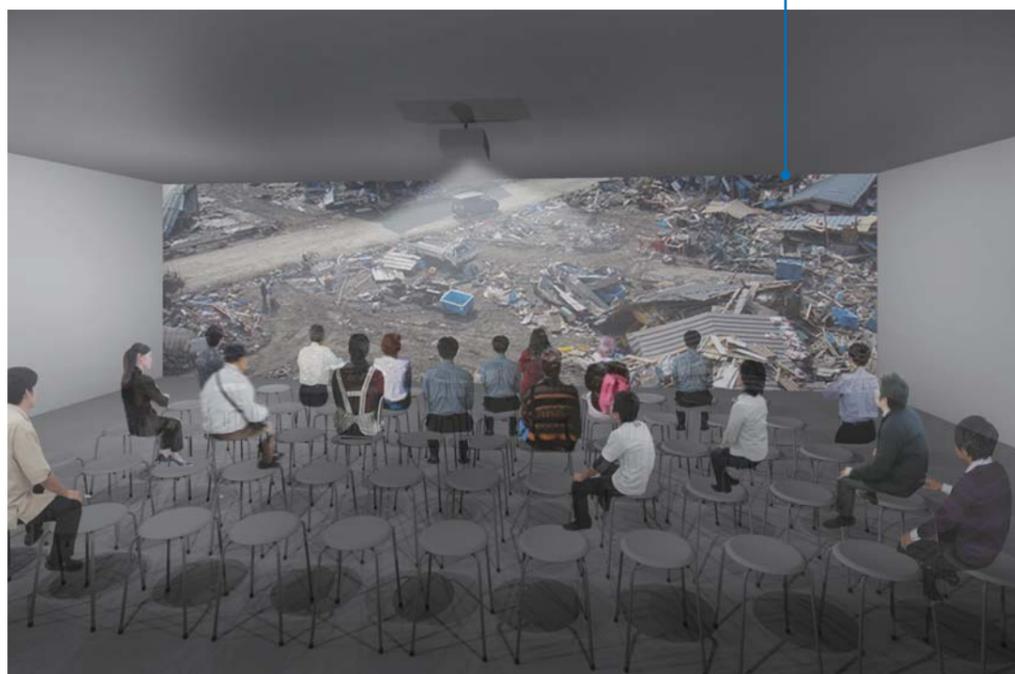
展示構成

ゾーン 2. 事実を知る



特記

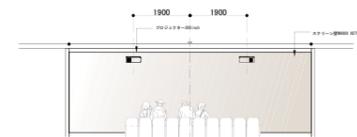
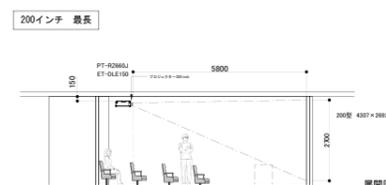
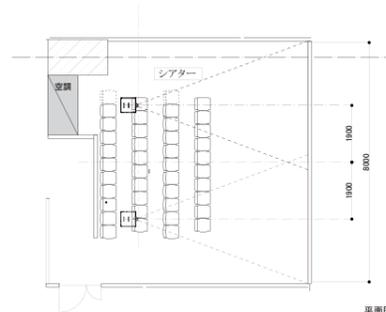
映像尺 10分程度  
外国語対応検討



スクリーン

展示解説資料、演出展開など

座席40人対応



ねらい

2-2 ① 東日本大震災津波の概要

- 「東日本大震災津波」の全体像について概観できるものとし、ガイドンシアターを観覧しない来館者にも東日本大震災津波の概要を分かりやすく知らせる役割を果たします。
- さらに、岩手県の被害の全体像について概観できるものとし、
- 県内沿岸部の12市町村の位置など、以後に続く「事実を知る」「教訓を学ぶ」等の展示を見学する上での基礎的な情報を提供します。

2-2 ② データで読み解く被害の大きさ

- 死者・行方不明者数や死因、家屋倒壊数、産業関連の被害額等、被災直後の数値をはじめ、一時避難所関連、さらにその後など、さまざまな側面からデータを集積し提示することで、東日本大震災津波の被害の甚大さや広がり、さらには数字の裏に隠れた被災者の苦しみや失われたものの大きさが読み取れることを目指します。

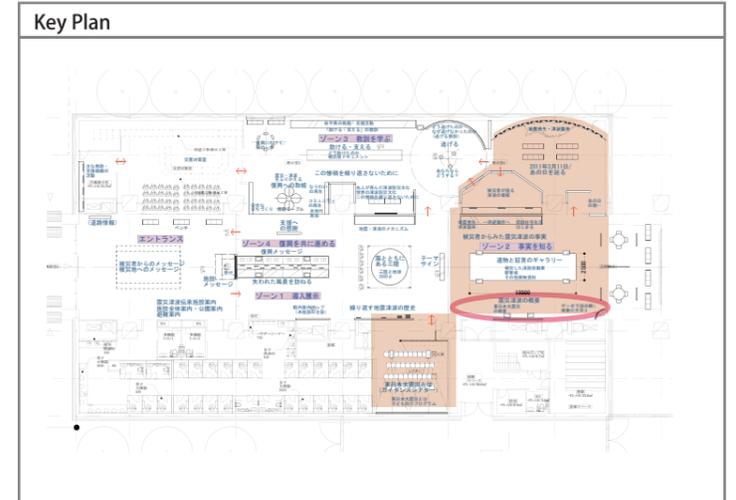
アイテム詳細説明

2-2 ① 東日本大震災津波の概要

- グラフィックにより、地震の発生と概要（震源地や震度分布、特徴等）、津波の概要（津波高、浸水高、浸水面積等）、全国の被害状況（人的被害、物的被害等）等、東日本大震災津波の全体像を集約し分かりやすく伝えます。
- 特に岩手県内の情報については、12市町村の行政区域MAPとともに、津波による被害の大きさなどの基本データ（津波高のデータや人的被害、建物被害、避難者数の推移等）を別途示します。

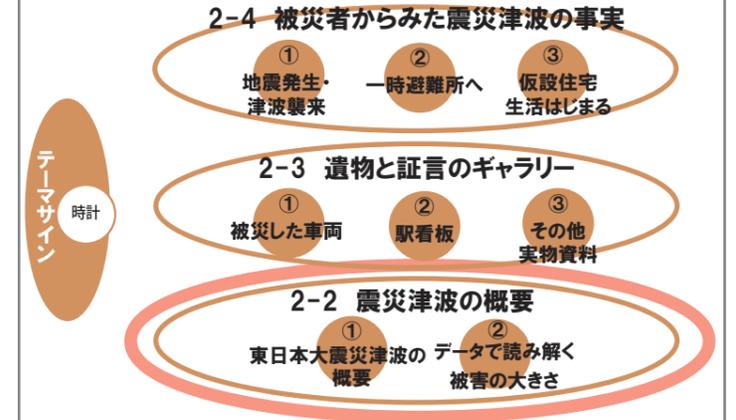
2-2 ② データで読み解く被害の大きさ

- グラフィックや検索装置により、各種のデータを示します。
- 検索装置では、いわて震災津波アーカイブのデータ検索をはじめ、地域別や、発生からの年数ごと、データの項目別、避難所生活関連、仮設住宅関連などシチュエーション別等、さまざまな形でデータが引き出せるよう検討します。

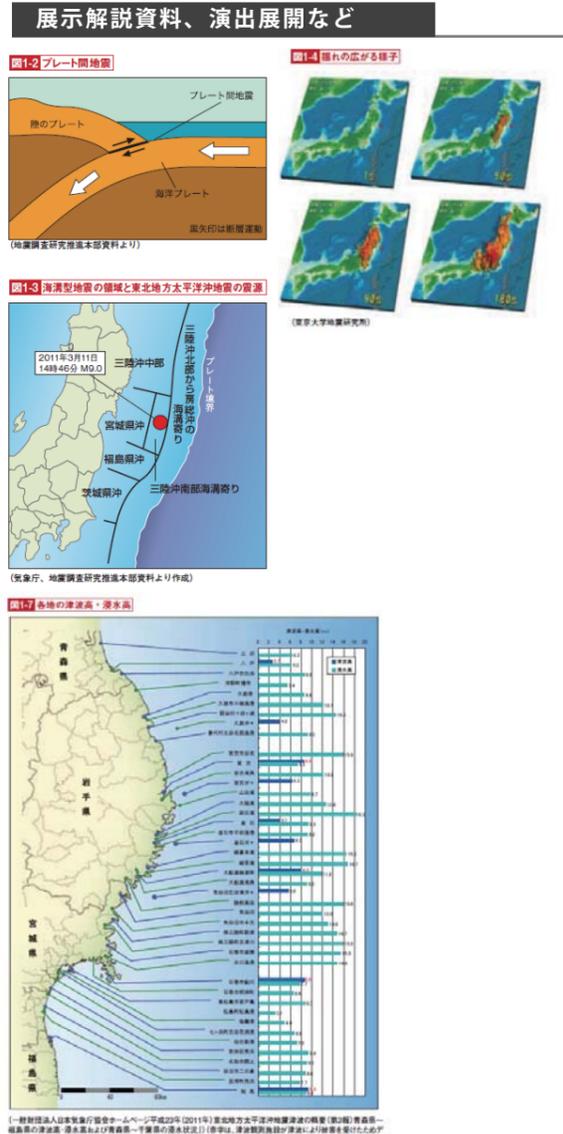
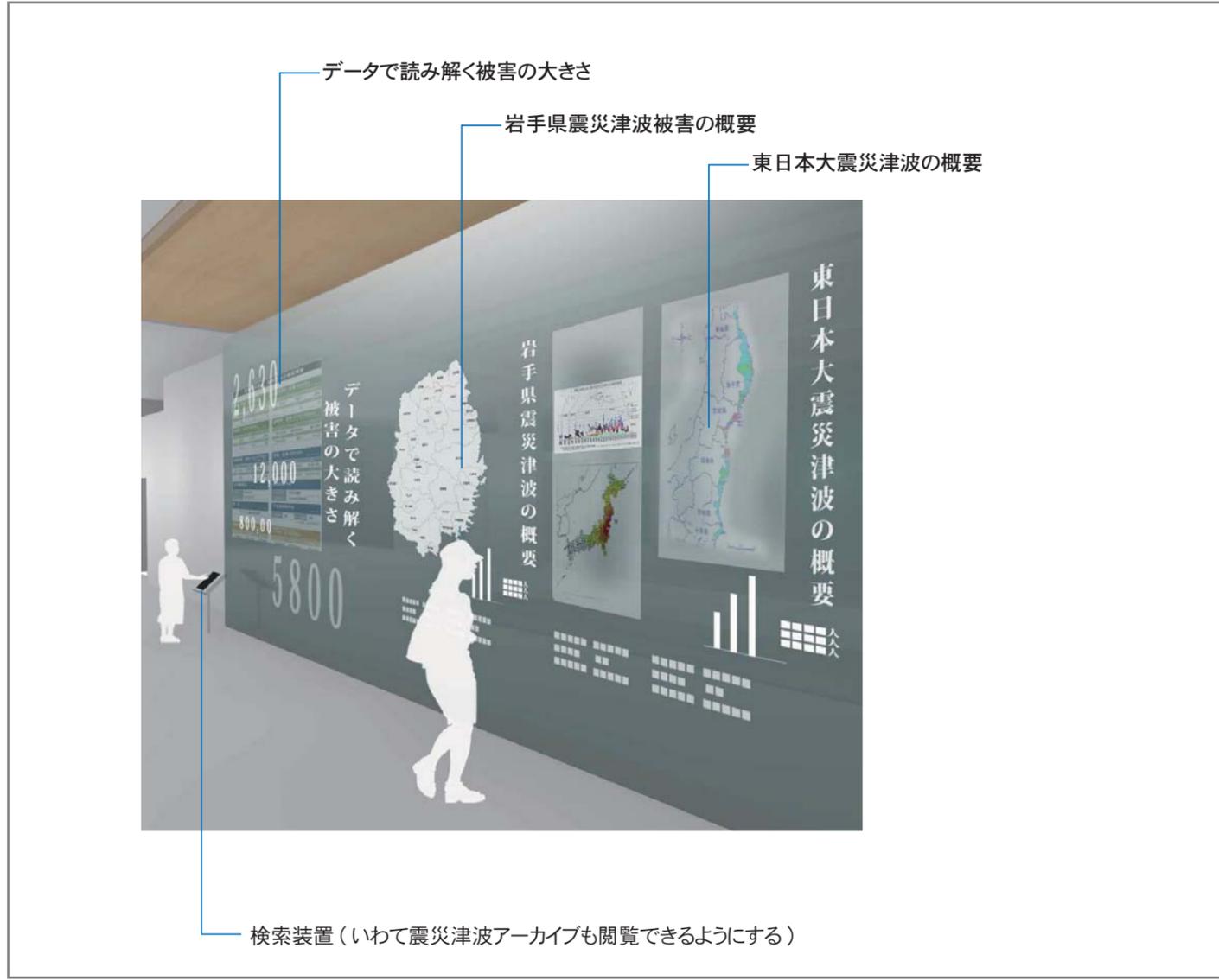


展示構成

ゾーン 2. 事実を知る



特記



出典：岩手県東日本大震災津波の記録

ねらい

2-3 遺物と証言のギャラリー

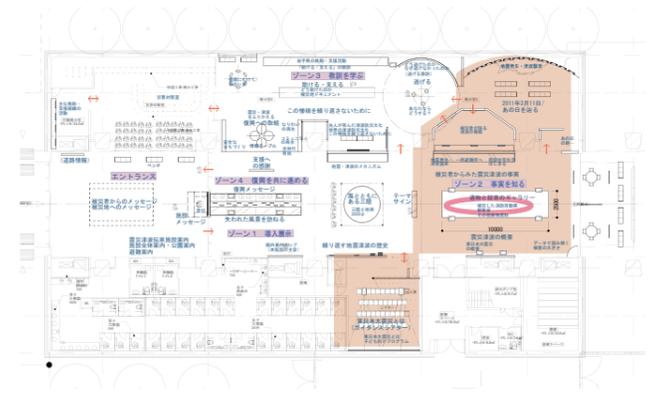
- 実際の被災遺物を展示し、目の当たりにすることで、東日本大震災津波の威力のすさまじさを実感し、被害の甚大さが感じられるものとします。
- また、被災した実物一つ一つから、ひもとけるそれぞれの物語を示すことで、なぜそこで被災したのか、そこにはどんな人が居たのか等、震災津波にまきこまれ、被害にあった人々がいたことに思いを致すきっかけとします。

アイテム詳細説明

2-3 遺物と証言のギャラリー

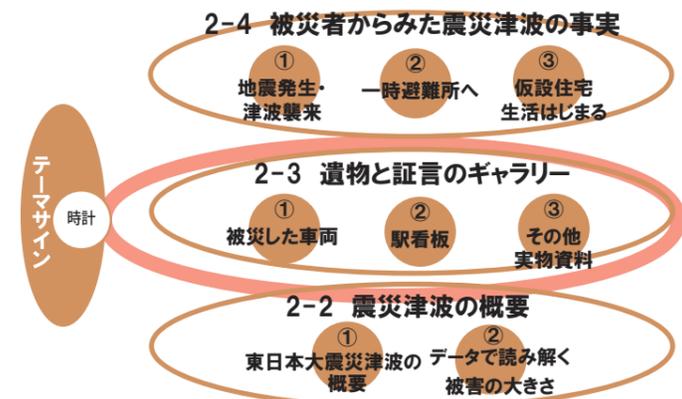
- 被災した車両、駅名看板等被災した実物を展示
- できるだけ発見時（被災したまま）の状況を再現した形での展示を目指します。
- タブレット解説等で、被災遺物にまつわるそれぞれのストーリーを紹介します。

Key Plan

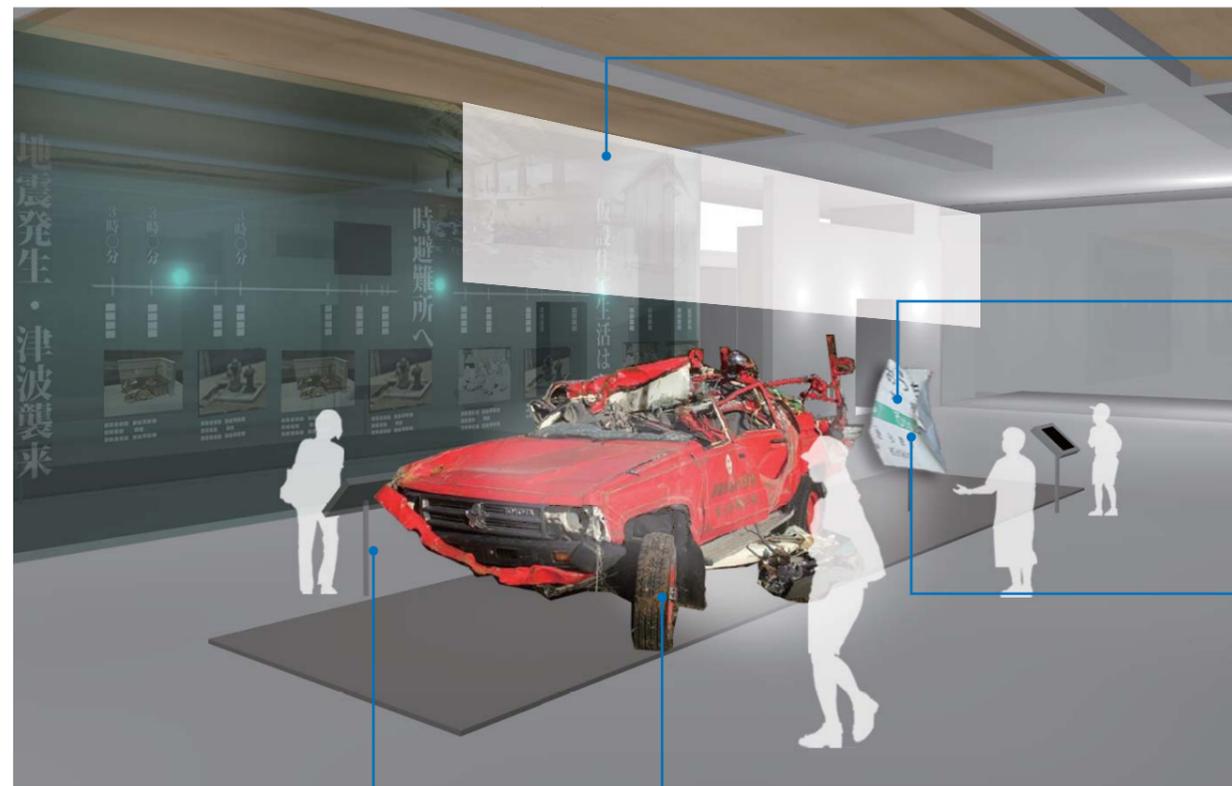


展示構成

ゾーン 2. 事実を知る



特記



被災の状況を伝える大型グラフィック

実物資料は、出来るだけ被災した時の状態でみせる

駅看板

資料解説  
タブレット端末

被災した車両

展示解説資料、演出展開など

実物資料候補事例



被災した車両



国道標識(国交省道路部)



距離標地名(国交省道路部)



気仙大橋部分(国交省道路部)



大槌町駅看板

ねらい

2-4 ①地震発生・津波襲来 ②一時避難所へ ③仮設住宅生活はじまる

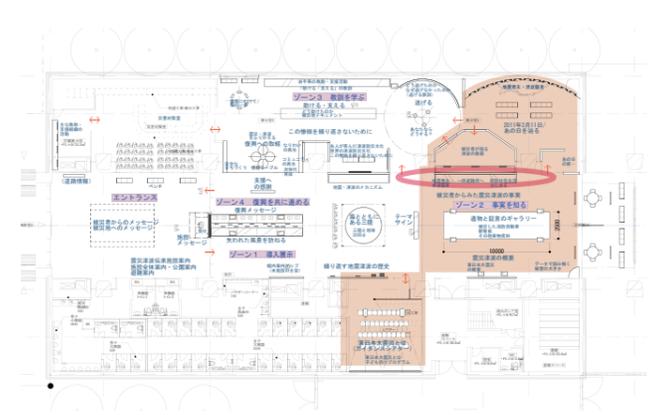
- 地震発生から各地への大津波の襲来による被災、被災直後の状況、さらに一時避難所での困難な暮らし、仮設住宅へと続くタイムラインに沿ってそれぞれの状況や抱える課題等が一連の流れとして捉えられるものとします。
- それぞれの状況を被災者の目線からたどることで、震災津波被害の事実（その概要）を浮き彫りにし示すことを目指します。

アイテム詳細説明

2-4 ①地震発生・津波襲来 ②一時避難所へ ③仮設住宅生活はじまる

- グラフィック及び映像などを組み合わせ、地震発生から津内襲来まで、各地の“その時”の様子を紹介。さらに被害の広がり、津波の去った後の爪痕等を紹介します。
- 避難所の困難な暮らしぶりや仮設住宅での新たな問題の発生等については、その時の様子や雰囲気が伝わるシーン造形を切口（入口）とすることで、子どもや海外からの来館者にも分かりやすい情報伝達を図ります。
- 一時避難所で肉親を探す張り紙など、その現場を示す実物やレプリカも展示します。
- また、県内における避難所や仮設住宅の数、避難住民の数など基本的なデータとともに、被災者の証言映像により在宅避難者等さまざまな状況での困難さについて伝えます。

Key Plan



展示構成

ゾーン 2. 事実を知る



特記

展示解説資料、演出展開など

■シーン造形での展示効果

・言葉で説明しなくても、そのシーン情景の心情が伝えることができる。  
→ユニバーサルな情報伝達（外国人、子どもなどに伝えやすい）



参考事例

■シーン設定（一次避難所）

- ①避難所で家族に再会できた人たち。  
家族も知り合いも誰もみつけられず、茫然とする人。
- ②家族を探す人たち。避難所の張り紙をみる人、張り紙を描く人。
- ③はじめて配給された食事の様子。
- ④毛布にくるまって寝る様子。
- ⑤トイレに並ぶ長蛇の列。
- ⑥炊き出し。

■サブシーン設定（一次避難所以外）

- ①陸前高田病院など、ヘリコプターで患者を避難させるなど緊急な状況。
- ②自宅避難者の避難物資をもらいにいけない心理描写。
- ③災害弱者、手話での会話や、車イスの老人等。
- ④ペット問題など。

ねらい

2-5① あの日の朝…

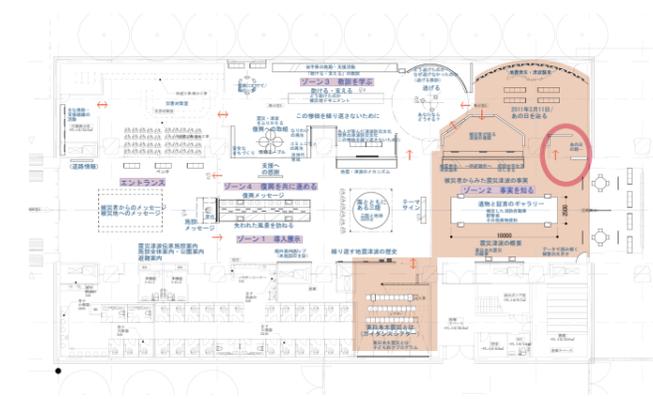
- 家財、街並、そこに生きていた人々、家族や思い出まで、根こそぎ全てを奪い去ってしまうのが津波の脅威であり、津波被害の大きな特徴です。
- 「地震発生・津波襲来」のプロローグとして、いつもと何の変わりも無かった“その日の朝”=普通の暮らしがあったことを示すことで、“日常”が突然として途絶える津波被害の恐怖、脅威、東日本大震災津波のもたらした被害の計り知れない大きさを感じさせることを意図します。

アイテム詳細説明

2-5① あの日の朝…

- 例えば、日付けとともに、被災地のその日の天候（天気予報）などをグラフィックで紹介、また、“その日の朝”を示す素材として、2011年3月11日の新聞朝刊や、その日の予定（例えば卒業式の予行演習等）が書かれた学校の黒板、個人のメモ等、実物を交え、普通の暮らしがそこにあったことを表現します。

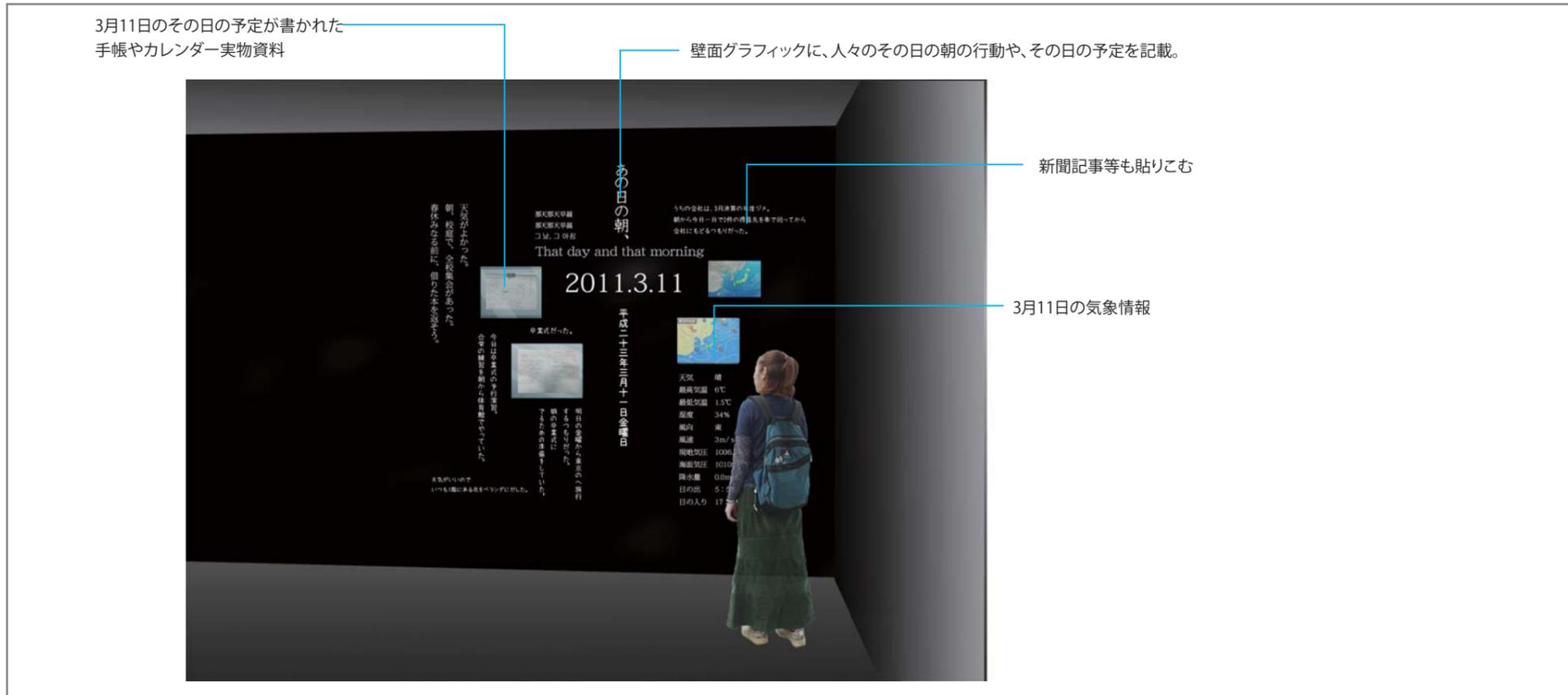
Key Plan



展示構成



特記



展示解説資料、演出展開など

ねらい

2-5② 地震発生・津波襲来

- 地震発生、そして津波襲来の“その日その時”の同時刻の様子が12市町村同時に見られるものとし、次々に襲う想像を絶する津波の規模やそのときの驚き（恐怖）、被害の様相を被災者の目線でダイジェストに伝え、実感出来ることをねらいとします。
- 12市町村各地域の被害の特徴も端的に示し、各地域で異なる被害の実相への気づきを促します。
- 津波襲来の後、その日の夜、一夜明けた朝の変わり果てたまちの様子までを紹介することで、沿岸部に広がる言語を絶する津波の威力と被害の甚大さ、その事実をありのままに伝え、実感出来ることを目指します。

アイテム詳細説明

2-5② 地震発生・津波襲来

- 海岸線を示す模型と映像の複合演出により、地震発生から、津波襲来、各地の被害等、翌朝までの状況を臨場感を持って伝えます。

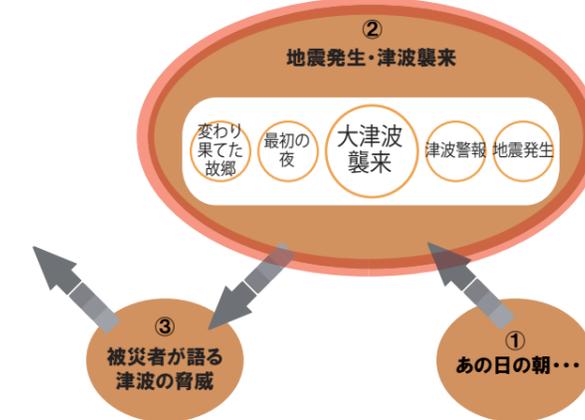
Key Plan



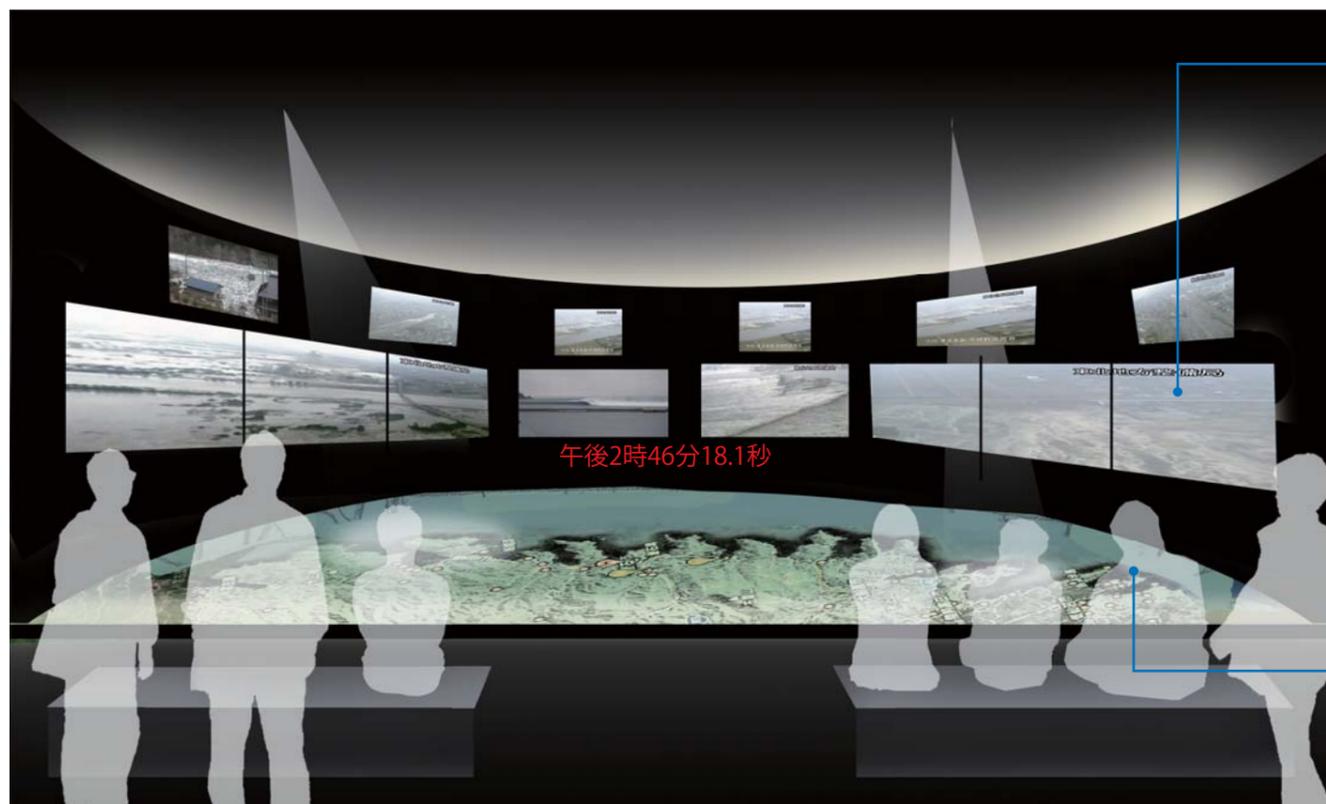
展示構成

ゾーン 2. 事実を知る

2-5 2011年3月11日/あの日を辿る



特記



マルチモニター  
12市町村の被災状況を  
映し出す

三陸沿岸の地形模型に  
津波がどのように押しよせたのか、  
また、火災が発生した地域など  
の情報を投影します。

展示解説資料、演出展開など

映像展開の概要構成



ねらい

2-5③ 被災者は語る津波の脅威

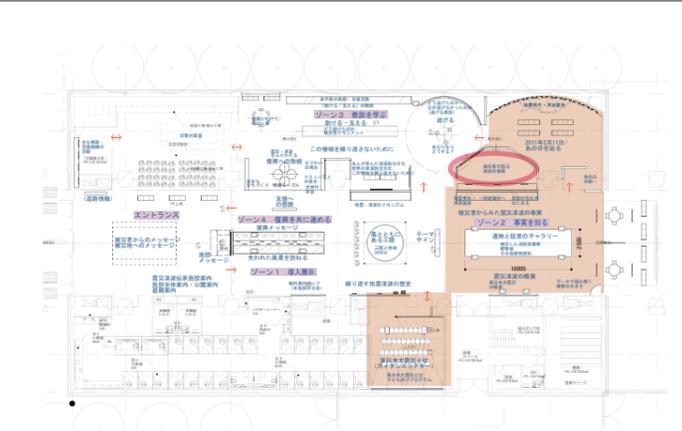
- 被災した方が 1000 人いればそれぞれ異なる 1000 の物語があると言われています。体験者個々の証言も貴重な展示物でありオーラルヒストリーを大切にするという考えのもと、個々の体験をありのままに、出来るだけ多く伝えることを意図します。
- その場に遭遇したからこそ語れる言葉から、津波の恐ろしさ、津波被害の甚大さ、命の大切さ（死んではならないこと）、悲しみや苦しみ等を臨場感をもって浮かび上がらせ、実感できることを目指します。

アイテム詳細説明

2-5③ 被災者は語る津波の脅威

- 証言映像とともに、さまざまな言葉そのものを目にし、読むことができるように工夫します。
- 扉を開ける、引き出す、めくる、覗く等来館者が働きかけることで、残された一つ一つの証言（それぞれの物語）により多くの来館者が出会い、向き合える形を目指します。

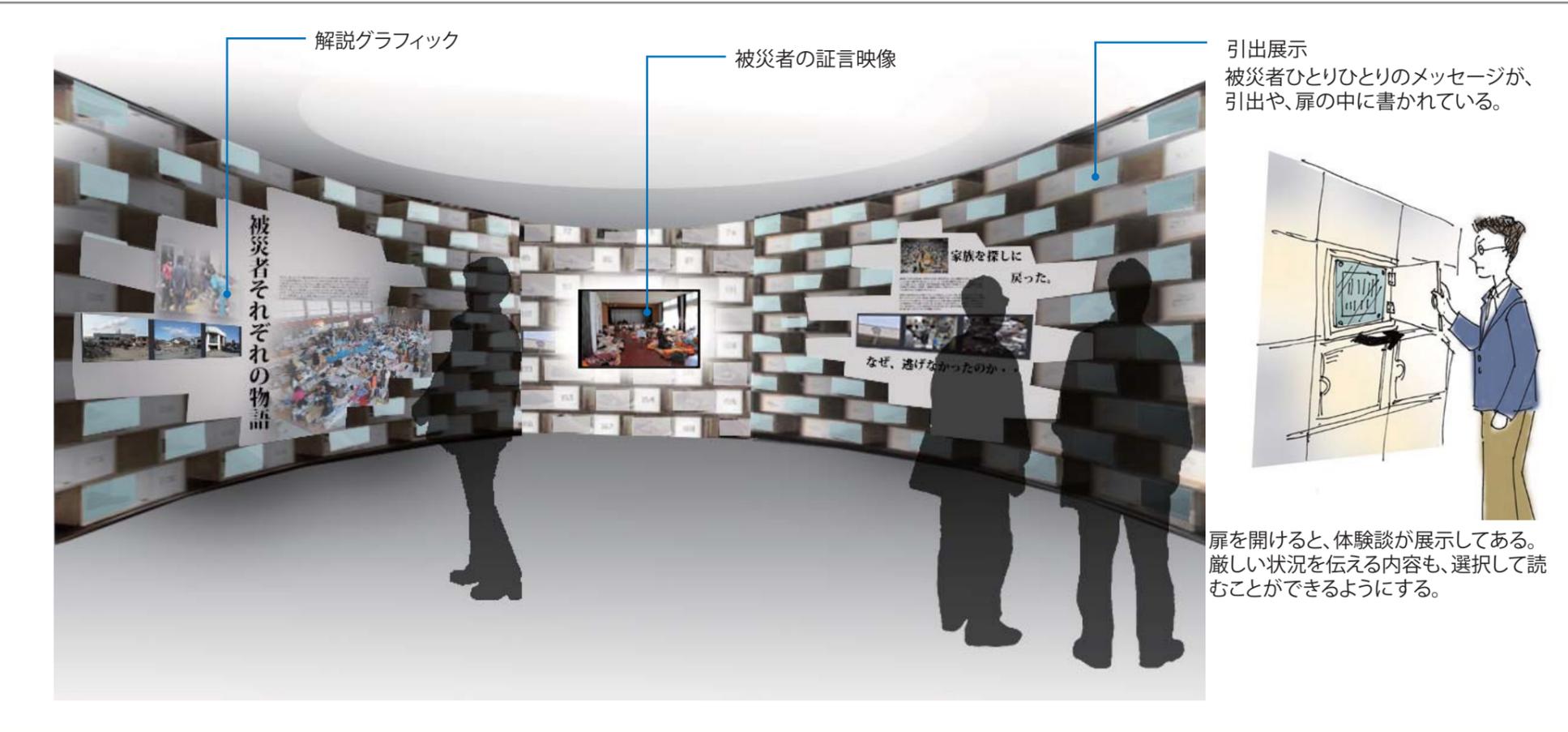
Key Plan



展示構成



特記



展示解説資料、演出展開など



東北地方整備局 震災伝承館HPより  
<http://infra-archive311.jp/?view=305488>

ねらい

3-1 ① どう逃げたのか・なぜ逃げなかったのか(逃げる教訓)

- 逃げることへの意識と行動が如何に人の運命を左右するのかを考える場とします。
- 被災者の方達の行動や証言から、“その時”の判断や意識のあり方などを分析するとともに、「避難行動」即ち「とにかく逃げる」ことが最重要であることをメッセージします。
- 命を落としてしまった行動の例も含め、さまざまな場面から、どう行動することがより良いのか、教訓を持ち帰ってもらえることを目指します。
- 多くの防潮堤が津波に破壊されてしまった一方で、譜代村の水門や洋野町種市の防潮堤が背後地を守ったという事例、防潮堤の存在が津波襲来を遅くしたという事実についても紹介し、インフラの役割・重要性について考えます。

アイテム詳細説明

3-1 ① どう逃げたのか・なぜ逃げなかったのか(逃げる教訓)

- 教訓を伝える人々の証言、「逃げる」ことの重要性を示すキーワードを前面にグラフィック展開し、アピールします。
- 津波から逃げ切った人々の教訓メッセージ、津波の犠牲になった人々の行動から分析される教訓の双方を示すものとします。
- モニター(映像)により生き残った人々の証言を示します。また、「犠牲者の行動の記録(岩手日報社・首都大学東京 システムデザイン学部 渡辺英徳研究室)」から分析される教訓を、遺族に配慮する展示としつつ、示すものとします。
- “人はなぜ逃げないのか”即ち「正常化の偏見」が明らかになる調査結果も示し、その危険性をアピール、何よりも逃げるということが最重要であることを訴えます。
- 水門や防潮堤が町や命を守った事例・事実をグラフィック等で紹介。

- 防災教育、防災訓練の事実から成功事例の分析・教訓も紹介



入力用タッチモニター  
被災者が感じた教訓の事例、  
言葉を入力できる

モニター「あの日、私は…」  
証言映像やタッチモニターから入力された教訓が表示される

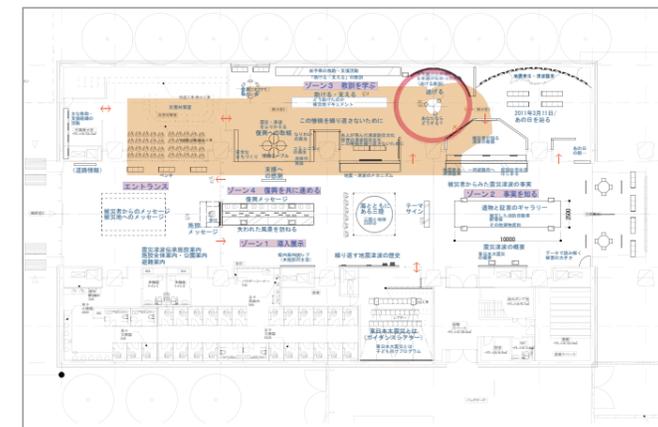
ハザード MAP の功罪など  
事実の分析から得た教訓も提示

モニター  
証言映像  
壁面全体がグラフィックになっている  
教訓を伝えるキャッチコピー  
「100回逃げて、100回来なくても101回目も必ず逃げて！」  
(釜石市/中学2年 女子)等

個人の逃げた経験のアンケート結果等  
• 人はなぜ逃げないのか？(正常化の偏見)  
チリ地震津波の調査他(釜石市アンケート等)常に6:4の割合で40%の人が避難の必要を感じないという結果が出ることを示す。自分は大丈夫だろうという根拠の無い思い込みは捨て、先ず「逃げる」ことが重要であることを伝える。

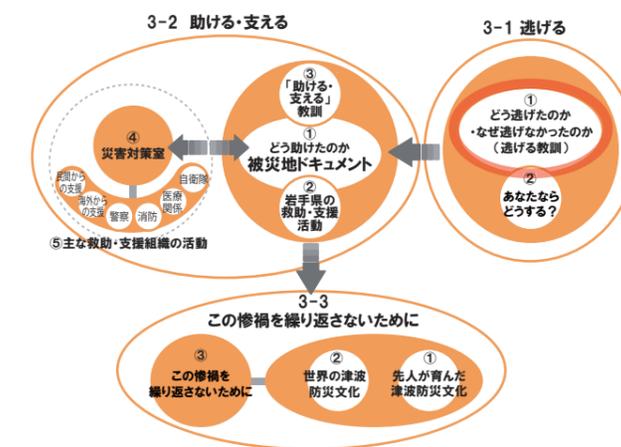
犠牲者の行動の記録(岩手日報社+首都大学東京)

Key Plan



展示構成

ゾーン 3. 教訓を学ぶ



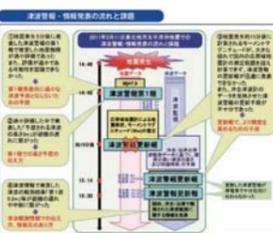
特記

展示解説資料、演出展開など

■ 気象庁津波予測からの教訓の事例

■ 津波予測の評価

この地震は、気象庁が地震の観測を始めて以来日本周辺で起こった地震としては過去最大規模の地震であった。気象庁は最初の津波警報・注意報を地震発生後3分程度で発表した。その時間内で求めた地震規模(マグニチュード)は7.9であった(地震規模の見積もりを過小評価することとなった)。そのため、津波の高さ予測も実際観測された津波より大きく下回るものとなった。以降、津波の観測状況により津波警報・注意報を順次更新したが、津波による大きな被害を受けた地域では停電などの影響により、その情報が伝わらなかったことも指摘されている。気象庁では被害の甚大さに鑑み、当時の津波警報等の発表経過を検証し、津波警報等の改善を進めたところである(津波警報の改善について)。



気象庁HPより

http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/hyoka/20110311Tohokuchioutaiheiyouki/index.html

ねらい

3-1 ② あなたならどうする？

- ・その時、どう行動するのか、地震津波（災害）発生時に重要な判断を、自らのこととして考えられるよう、きっかけを提供することを目指します。
- ・また、どう行動するのがより良いのか、具体的な教訓や判断の材料を持ち帰ってもらえることも意図します。

アイテム詳細説明

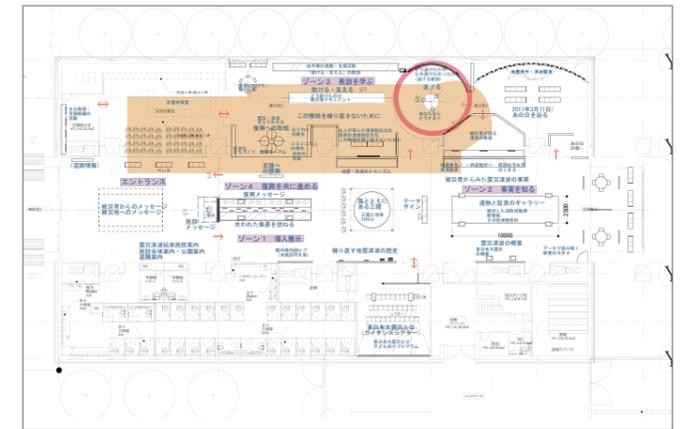
3-1 ② あなたならどうする？

- ・発災時に遭遇するであろうさまざまなシチュエーションを設問として示し、自ら考え、答える参加型の展示展開を取り入れます。
- ・来館者の判断結果そのものが展示となり、それを見た人々にも考えるきっかけを提供することも意図します。

【展開例】・災害発生時に判断を迫られる具体的な問いかけを提示

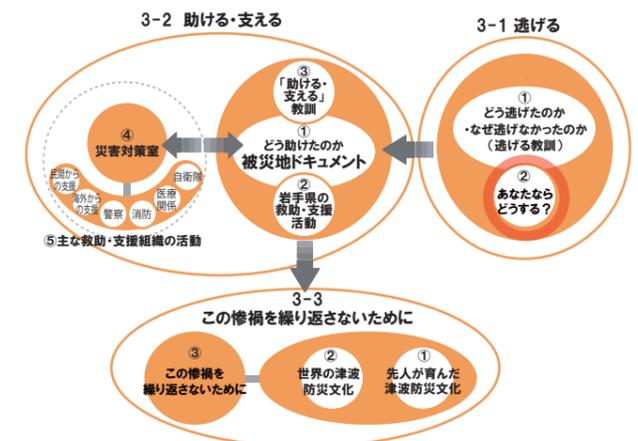
- ↓
- ・来館者は考え、判断した（はい/いいえ）どちらかのカードを取り、持ち帰ることができます（※取った紙裏には関連する教訓が記載されています）
- ↓
- ・カードの減り方が実物のグラフ展示となり、問いかけへの結果を示します
- ↓
- ・災害を“自分ごと”として考え、自分で“判断する”きっかけを提供

Key Plan



展示構成

ゾーン 3. 教訓を学ぶ



特記

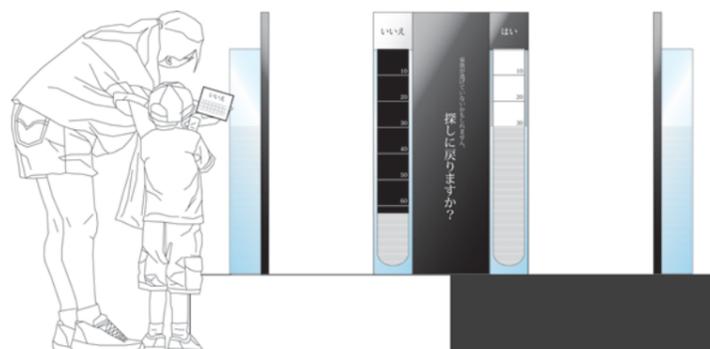


様々な問いかけを設定

- 問いかけ例
- ・3mの津波警報が流れたら、あなたは逃げますか？
  - ・家族が逃げていないかもしれません探しにもどりますか？

紙には自分の答え(はい/いいえ)と、関連する教訓が書かれている。紙を持ち帰ることで、自分の“判断”を忘れないように促す効果を期待する。

展示解説資料、演出展開など



ねらい

3-2 ① どう助けたのか 被災地ドキュメント

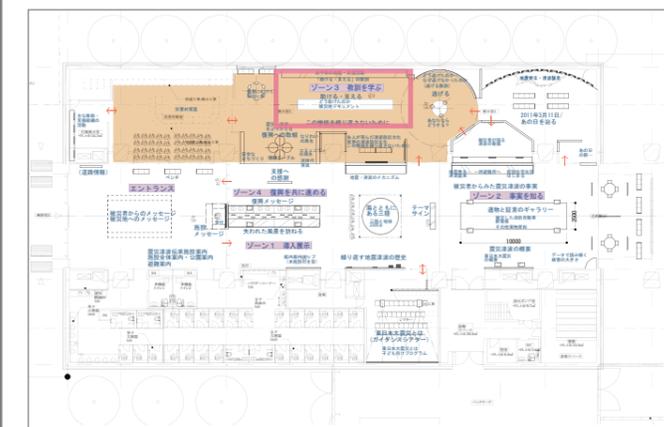
- ・ 必死の人命救助活動、物資の供給、瓦礫の撤去、道路啓開、リエゾン・テックフォース等の支援活動など、未曾有の困難に驚くべき速さで立ち向かったことを示します。
- ・ 被災者・被災地を救うために誰がどのように動いたのか、主要な動きを時間軸で追いつながり紹介するとともに、全体像を俯瞰し理解できるように示します。
- ・ “人命救助” から “被災者の生活支援” へと移り変わる流れの中で、現場でどのような活動が展開されたのか、各組織としてどう判断し対応したのか等の状況を伝え、どのような動きが重要であったのか、なぜそれができたのか、何が成功し、足りなかったことは何だったのか等、さまざまな主体や局面において、次への教訓を引き出すための事実（の記録）としての役割を果たします。

アイテム詳細説明

3-2 ① どう助けたのか 被災地ドキュメント

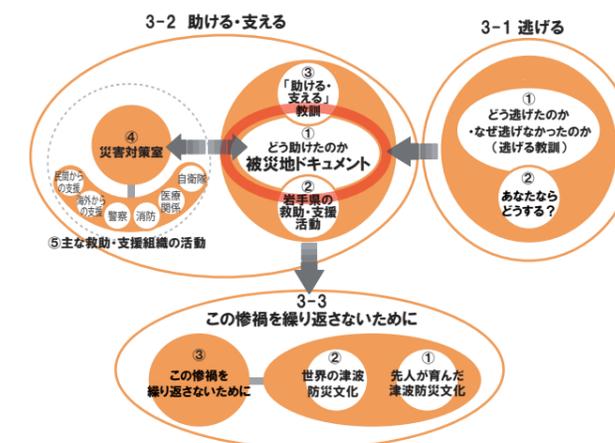
- ・ 発災直後から直ちに動き出した人命救助・捜索活動、救急医療活動、道路啓開活動、消火活動や通信確保の動き等、さらに物資輸送や避難所支援の活動等、多様な動きを時間軸に沿って概観できるテーブル展示を設けます。
- ・ 模型、映像、音声、グラフィック、新聞記事等、多様な資料や手法を組み込み、それぞれの動きを分かりやすく伝えます。

Key Plan



展示構成

ゾーン 3. 教訓を学ぶ



特記

岩手県の災害対策本部機動性  
後方支援基地遠野市



被災地ドキュメントテーブル  
(グラフィック、映像、シーン造形)  
引き出し(グラフィック・実物展示)

展示解説資料、演出展開など



岩手県東日本大震災津波の記録  
(企画・発行 岩手県)



ガレキの中を探索する自衛隊員

● 集積されたヘリコプターの運用  
今回の震災では、被災地初発災からヘリコプターの運用が焦点となった。道路が寸断し、物資が運ばれず、地上からの救助活動が困難だったからである。発災当初は、罹災地から約10km離れた場所でも104か所の孤立地帯があったから、これらの地域での人命救助や物資支援は、当初の間、全てヘリコプターで行ったのである。

この点については平成20年の岩手県内陸地域での教訓が生かされた。当時、岩手県と秋田県を結ぶ国道342号線が至る所で寸断され、国道とその周辺にいた約300人以上の人たちが孤立し、現地に取り残された。孤立した人々を救助するため、他県からの防災ヘリや警察、自衛隊、海保などの数機のヘリコプターを運用することになった。限られた地域でヘリコプターを運用するには、安全運航上

表3-2 各機関が救助した生存者数と収容した遺体数  
平成23年6月1日現在

機関名	生存者救出数(名)	遺体収容数(体)
陸上自衛隊	460	2,530
自衛隊	206	200
海上自衛隊	38	75
航空自衛隊	26	445
消防	82	不明
警察	40	不明
海上保安庁	6	109
防災ヘリ(各県応援ヘリ隊含む)	67	0
合計	925	3,359

ヘリコプターによるヒックアップ数(3,422名)

ねらい

3-2 ② 岩手県の救助・支援活動 ③ 「助ける・支える」教訓

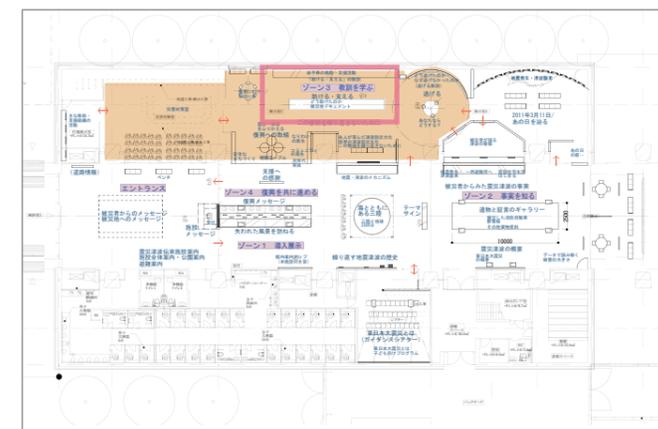
- ・その時、現場で書かれた指示など多量の手書き資料により、地震津波発生に伴う緊迫感・臨場感を伝えます。
- ・「どう助けたのか 被災地ドキュメント」で示された助ける側のさまざまな動き（事前の備えや対応、訓練、地元業者との信頼関係による対応等）や、各担当の責任ある判断に裏打ちされた現場力（地域に根ざした全国組織の重要性）、組織力（有能な人材・豊富な物資を有する全国組織の重要性）等、教訓・成果を専門的な見地からの考証を踏まえ提示します。
- ・失敗事例から引き出せる教訓も含め、いつ、どこで発生するかもしれない地震、津波等の大災害に対し、さまざまな主体が備え、準備に役立て、一人でも多くの命を救うことができるための教訓の発信を目指します。

アイテム詳細説明

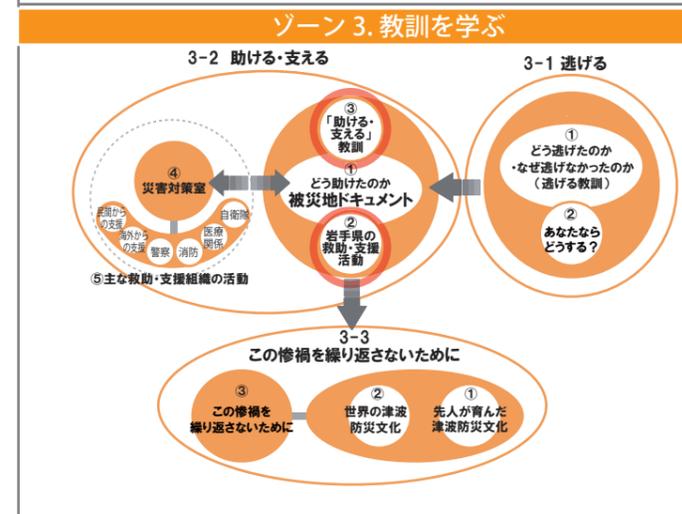
3-2 ② 岩手県の救助・支援活動 ③ 「助ける・支える」教訓

- ・震災発生直後から、岩手県災害対策本部や遠野市の後方支援拠点で実際にいられた救助・支援に関わる対策の手書きの指示書やメモなどの実物（記録資料）をマスで展示し、遠野市への誘導にも配慮します。
- ・合わせて、グラフィックや映像（検索装置等）により、「どう助けたのか 被災地ドキュメント」から引き出せる教訓（助けるための現場力、支えるための組織力、指揮力等）を整理し、分かりやすく紹介・解説します。
- ・主な学習対象として、「行政関係者」及び「防災リーダー・個人」を想定した教訓の提供を目指します。

Key Plan



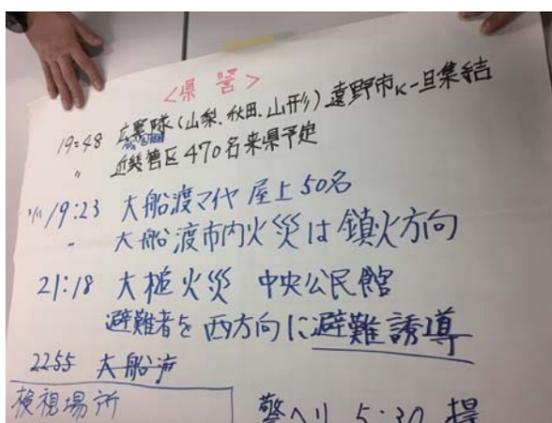
展示構成



特記



展示解説資料、演出展開など



参考: 岩手県資料



参考: 遠野市総合防災センター

岩手県東日本大震災津波の記録



岩手県東日本大震災津波の記録 (企画・発行 岩手県)

ねらい

3-2 ④ 災害対策室

- ・ 発災時、救助・救援活動の指揮拠点となった実物の「災害対策室」を移設し、被災者・被災地を救うために、想像を超えた困難に人々がどう立ち向かったのか、その事実を臨場感豊かに伝えます。
- ・ 日頃の備えや訓練に基づく現場力、全国組織の組織力、政府代表者として指揮権限が付与された本部の指揮力の重要性を感じてもらうとともに、そこから培った教訓の発信を目指します。
- ・ また、この場の環境を活かし、多様なプログラムを展開する場としても機能させます。

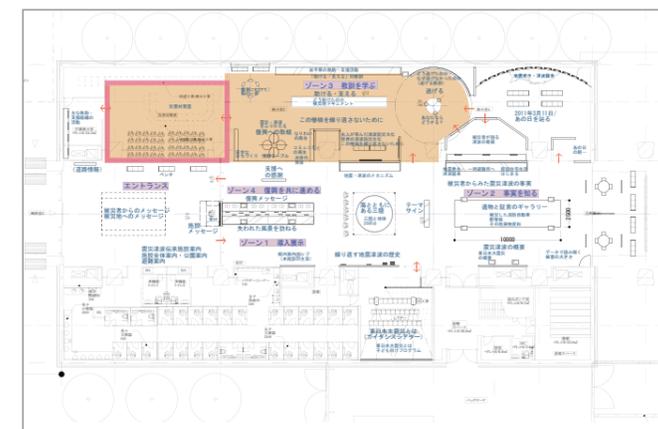
アイテム詳細説明

3-2 ④ 災害対策室

- ・ 演出モードと非演出モードを設けることを検討します。
- ・ 災害対策室の現場を再現、当時の状況を空間的にも再現（卓上メモ、白板、くしの歯作戦を描いた地図等）するなど、臨場感の演出も検討します。
- ・ 演出モードでは、中央スクリーン及び左右のモニターを活用し、実際の写真や映像により、震災当時の災害対応プロセスを追体験できるよう検討します。
- ・ 非演出モードでは、室内を自由に見学し卓上のメモなどで当時の状況を感じられるよう努めます。
- ・ 夜間は中央スクリーンに道路情報を表示します。

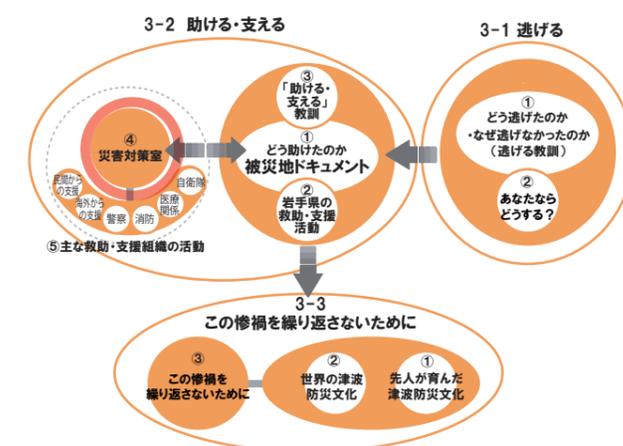


Key Plan



展示構成

ゾーン 3. 教訓を学ぶ



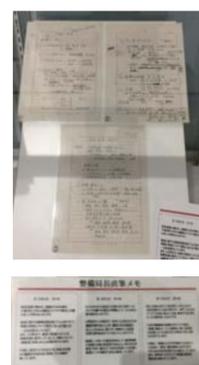
特記

非演出モードの際の映像は津波なし  
演出モードの際の映像は津波ありも可（入場制限+ブラインド）

■ 想定される映像コンテンツ

- ① 東日本大震災の初動対応～東北地方整備局の三日間～（約8分）
- ② 災害対策室の再現映像（約20分）
- ③ 災害対策室活動指揮のインタビュー（6人程度）
- ④ 3.11近傍のCCTV映像
- ⑤ CCTV・みちのく号等つなみ映像（ゾーン2で活用もあり）

展示解説資料、演出展開など



東北地方整備局長直筆メモ



くしの歯作戦図



写真出典：東北地方整備局 震災伝承館

ねらい

3-2 ⑤ 主な救助・支援組織の活動

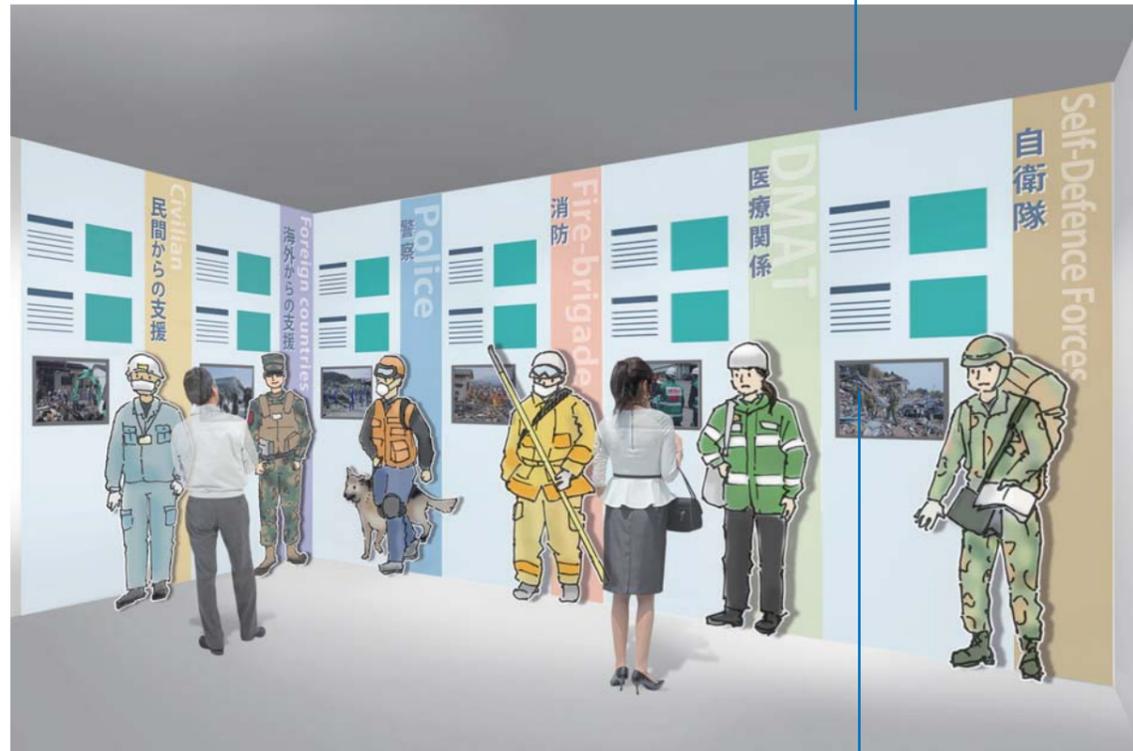
- ・今次災害救助・支援活動に大きな役割を果たした自衛隊、消防、警察、またDMATや海外からの支援、民間支援（地元建設業者等）など、活動の主体者別に救助・救援・支援活動をまとめ、示すことで、それぞれの活動内容や重要性について知り、理解を深められるものとする。

アイテム詳細説明

3-2 ⑤ 主な救助・支援組織の活動

- ・主体別に、その活動をグラフィック及び映像解説により紹介します。
- ・主体者が一目で分かるよう、切り出しグラフィック（制服姿の写真など）等、展示手法も工夫します。

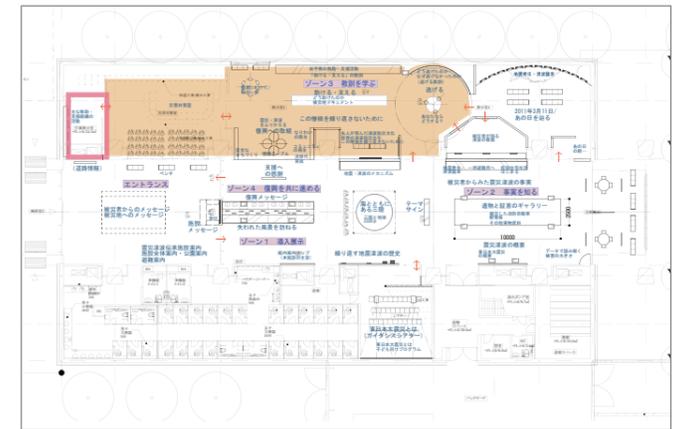
警察や自衛隊、消防隊、海外からや民間支援等、さまざまな組織がどういった救助・支援活動を行ったかを語る。



グラフィックを中心とした展開（一部更新性）

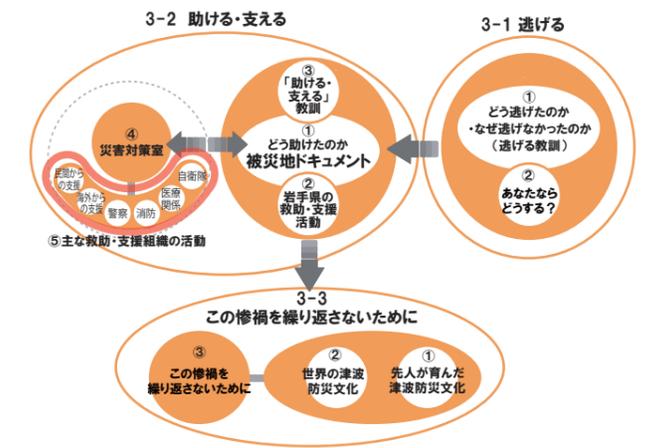
映像検索装置（当時のエピソードや思い等）

Key Plan



展示構成

ゾーン3. 教訓を学ぶ



特記

展示解説資料、演出展開など



写真出典：東北地方整備局 震災伝承館

ねらい

3-3 ① 先人が育んだ津波防災文化

- 過去の教訓が継承され、活かされたことで命や財産が守られた事例を積極的に紹介し、三陸に育まれた津波防災文化の意義を伝えます。
- また、繰り返し襲った津波災害を乗り越えてきた三陸の人々の経験が育んだ防災文化の紹介を通じて、将来の津波災害を乗り越えていくための気づきや自然観等を問いかけるとともに、岩手大学地域防災研究センターや東北大学災害科学国際研究所等の研究成果を紹介するなど、新しい防災文化を考えます。

3-3 ② 世界の津波防災文化

- 世界的視野でも津波災害に対する過去の教訓が活かされた例を紹介することで、将来の津波災害を乗り越えていくための継承の重要性や自然の持つ力への気づきを促します。
- また、「世界津波の日」、アチェやハワイに設置された津波防災学習施設の活動など、新たな防災文化の発信や取り組み・成果についても紹介します。
- 海外からの来館者の興味・関心をひくきっかけとしての役割も果たします。

3-3 ③ この惨禍を繰り返さないために

- 津波は発生頻度が少なく、他の災害に比べ、教訓が世代を越えて伝えられることが重要です。
- ここでは、教訓を学ぶゾーンのまとめとして、専門家や有識者、被災を乗り越えた人達、救助や支援に携わった人達等から、長く未来へと引継いでもらいたいメッセージを発信し、来館者に伝えていくことをねらいとします。

アイテム詳細説明

3-3 ① 先人が育んだ津波防災文化

- 「津波てんでんこ」や「津波石」はじめ、三陸各地に残る津波関連の防災文化、また、今回の震災でも機能した地域での取り組み事例、津波防災のまちづくりなどについて、グラフィックとともに映像手法を交えて伝えます。
- 防災教育に関連する紙芝居などの実物も展示し紹介します。
- 特に「津波てんでんこ」については、さまざまなシチュエーションで津波災害に遭遇することを想定し、質問形式により共に「てんでんこ」の意味・意義を考える来館者参加型のQ&A装置を設け、その結果を蓄積し発表していく形も考えます。

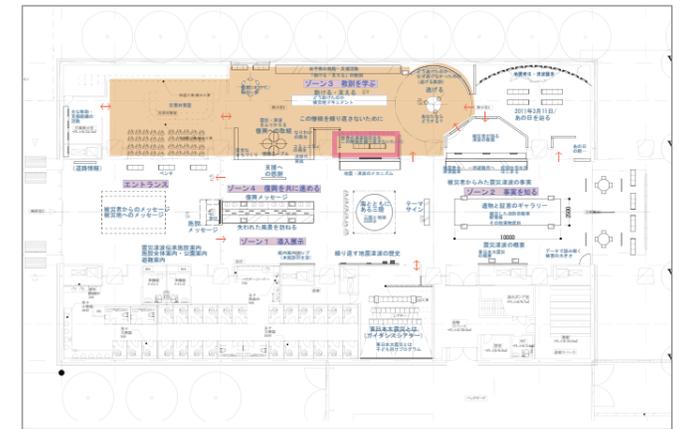
3-3 ② 世界の津波防災文化

- グラフィックや映像を用いて、例えばインドネシアの伝承歌など、世界で受け継がれ機能を発揮した防災文化の事例を紹介します。
- インドネシアの「アチェ津波博物館」や、ハワイの米太平洋津波警報センター（PTWC）、ユネスコの国際津内情報センター（ITIC）はじめ、世界の研究機関等における最先端の研究や研修の取り組みなどについても、グラフィック及び映像などにより伝えます。

3-3 ③ この惨禍を繰り返さないために

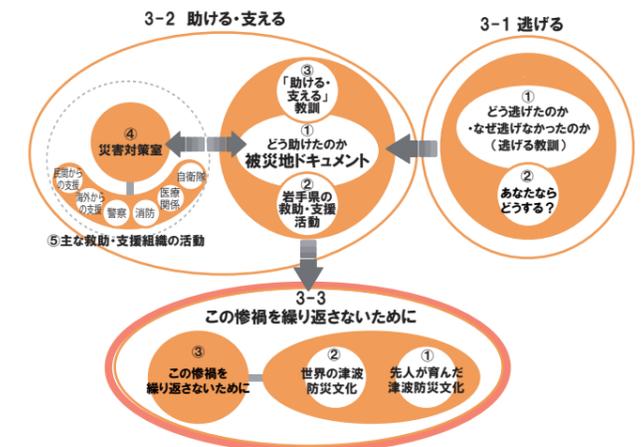
- 映像により、今回の災害に関わった専門家の人々や地震津波の専門家、その他、被災者や救助・支援にあたった人々などがそれぞれの立場で語るメッセージを伝えます。
- 出来るだけ、短く、端的な表現で語ってもらい、多くの人から来館者へ向けた教訓が伝わるよう工夫します。

Key Plan



展示構成

ゾーン 3. 教訓を学ぶ



特記



世界の最新の研究等を検索

3.11のまとめ映像  
・被災を乗り越えた人  
・救助にあたった人  
・専門家  
・研究者  
等を映像と肉声で紹介

街づくりの事例、津波石等、  
先人が育んだ津波文化を検索

展示解説資料、演出展開など



震災パネル①  
東日本大震災と救命・救援ルート確保、復旧への記録  
「忘れない。」全42枚  
国土交通省 東北地方整備局

津波被害・津波石情報アーカイブ



東北地方整備局道路部  
津波被害・津波石情報アーカイブ  
<http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekijihouhou/index.html>

三陸地域は元来、その物理的・地形的特徴ゆえに幾度となく津波に悩まされてきた。津波の被害や教訓を後世に語り継ぐべく、当時の人々は各地に「津波石」を建立し、今やその数は200以上に及ぶ。しかし、時代の移ろいとともに、津波石の声に耳を傾ける人も僅かになってしまった。

過去の津波の記憶が風化しつつある中、東日本大震災は私たちの慢心や油断、警戒心の薄れを浮き彫りにした。今、改めて津波石の声を聞いてほしい。

津波石。

それは、津波の惨禍を繰り返さないための先人が残したメッセージ。

ねらい

4-1 ① 復興に向けて/私の一步

- 被災地が復興へ向けて歩んでいる姿の発信に当たり、先ず、被災者一人一人が震災津波被害を乗り越え、もう一度前を向いて歩んで行こうとする、そのきっかけとなった事柄について発信することにより、復興情報全体への導入を図ります。
- オーラルストーリーの観点とともに、被災者一人一人の顔（主体）が見えることで、来館者にも親しみと実感をもって復興情報に接してもらうことがねらいです。

アイテム詳細説明

4-1 ① 復興に向けて/私の一步

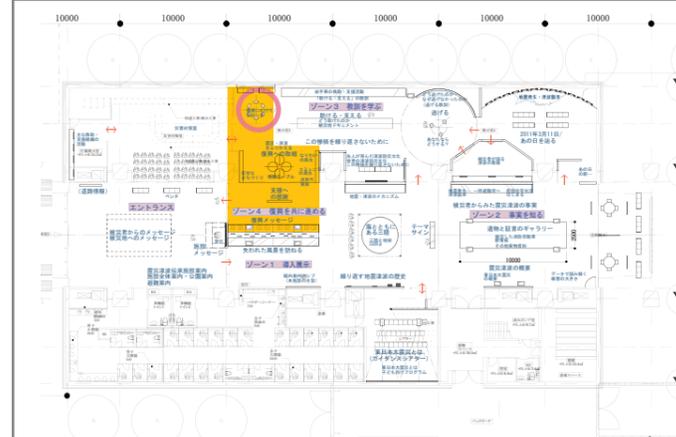
- 映像により、それぞれの被災者が前を向くきっかけとなった内容について語ってもらい、発信を図ります。



映像検索モニター

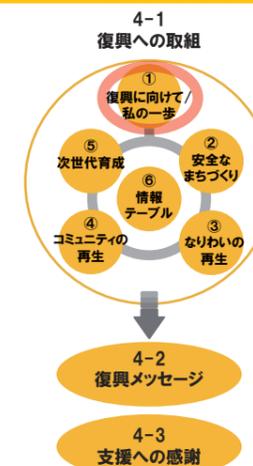
展示解説資料、演出展開など

Key Plan



展示構成

ゾーン4. 復興を共に進める



特記

ねらい

4-1 ② 安全なまちづくり ③ なりわいの再生 ④ コミュニティの再生  
⑤ 次世代育成 ⑥ 情報テーブル

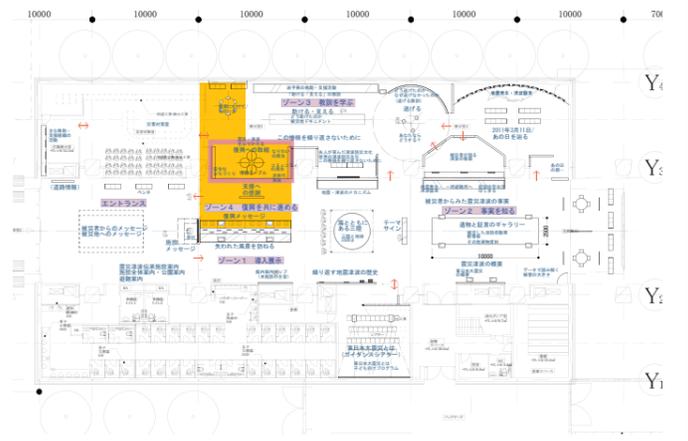
- 被災地が、震災津波被害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいる姿を発信します。
- インフラの整備・強化など復興の骨格をなす事業や計画（安全なまちづくり）、防災教育の推進など、次の津波に負けないための安全なまちづくりについて紹介。
- さらに、なりわいやコミュニティの再生、次世代育成など、地域再生・復興に取り組む人々の姿やその活動を生き生きと伝えることを目指します。

アイテム詳細説明

4-1 ② 安全なまちづくり ③ なりわいの再生 ④ コミュニティの再生  
⑤ 次世代育成 ⑥ 情報テーブル

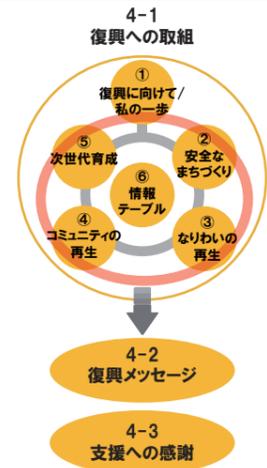
- グラフィック及び映像検索により「安全なまちづくり」「なりわいの再生」「コミュニティの再生」「次世代育成」といったテーマに関するさまざまな取組みの“今”を紹介します。
- グラフィックについても更新性の高いシステムとし、リアルタイムに随時情報を更新し発信できるものとします。
- 実物展示にも対応できる展示什器（情報テーブル等）も用意します。

Key Plan



展示構成

ゾーン 4. 復興を共に進める



特記

復興道路DVD（約10分）  
国土交通省東北地方整備局より  
支給予定



展示解説資料、演出展開など

ねらい

4-2 ① 復興メッセージ

- ・震災津波被害を乗り越えて来た人々が、それぞれに復興に向け取り組んでいる姿、頑張っている姿を、個々の人々からの感謝のことばとともに発信します。
- ・この経験とそこから培われた知恵を世界に発信していくことについて、国内外の来訪者に理解と共感を促す。

4-3 ① 支援への感謝

- ・復興に向けて寄せられた国内外からの厚い支援への感謝の気持ちを伝えます。

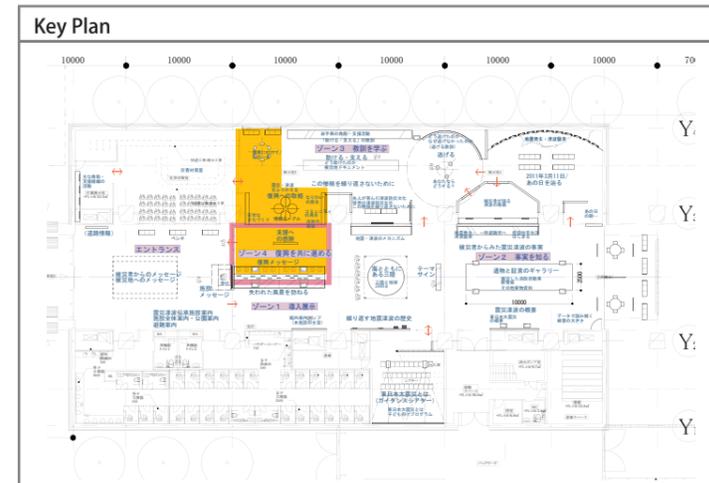
アイテム詳細説明

4-2 ① 復興メッセージ

- ・検索モニターを用意、それぞれの人々が語る映像とともに、グラフィック表現も含め、何よりも被災地の人々一人一人の生のことばにより、復興への取組みや決意、感謝の気持ち等を伝えます。

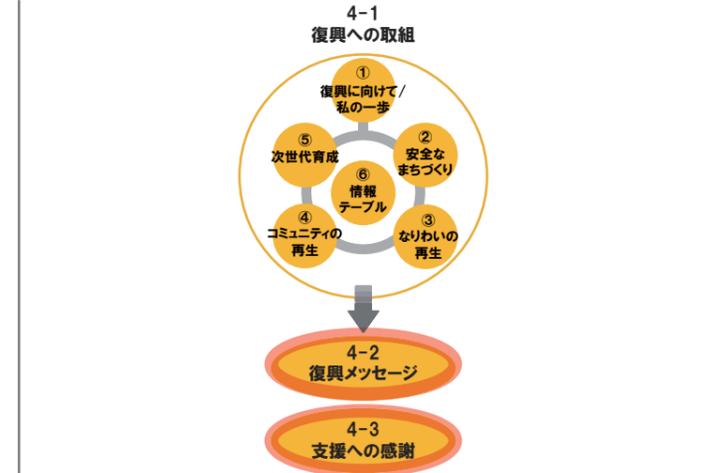
4-3 ① 支援への感謝

- ・「感謝のことば」を記します。  
※インタラクティブ装置を設けることで、その場で書込め、その結果が反映されるなど、来館者参加型の方式も検討します。



展示構成

ゾーン 4. 復興を共に進める



特記

復興メッセージ

復興へ向けた言葉



復興している街の様子等の写真や映像

展示解説資料、演出展開など

支援への感謝

世界各国(クエート、パキスタン等々)から支援を受けたことに対して、世界中の人に向けた感謝のことば、世界の言葉でのありがとうなどの展示手法も検討する。



※参加型も検討する

ねらい

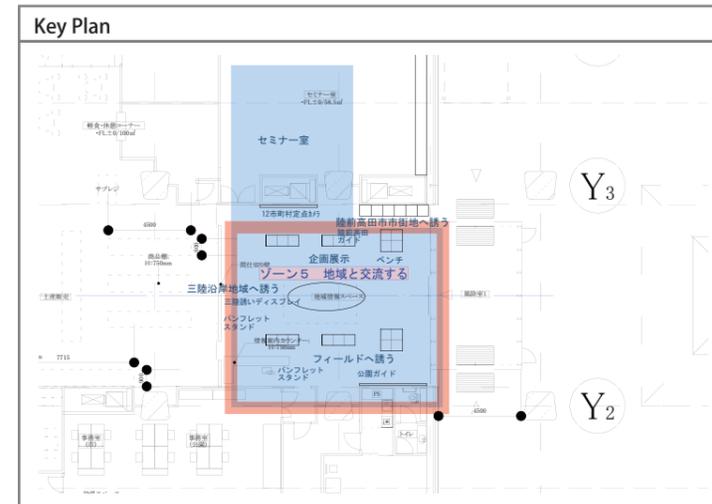
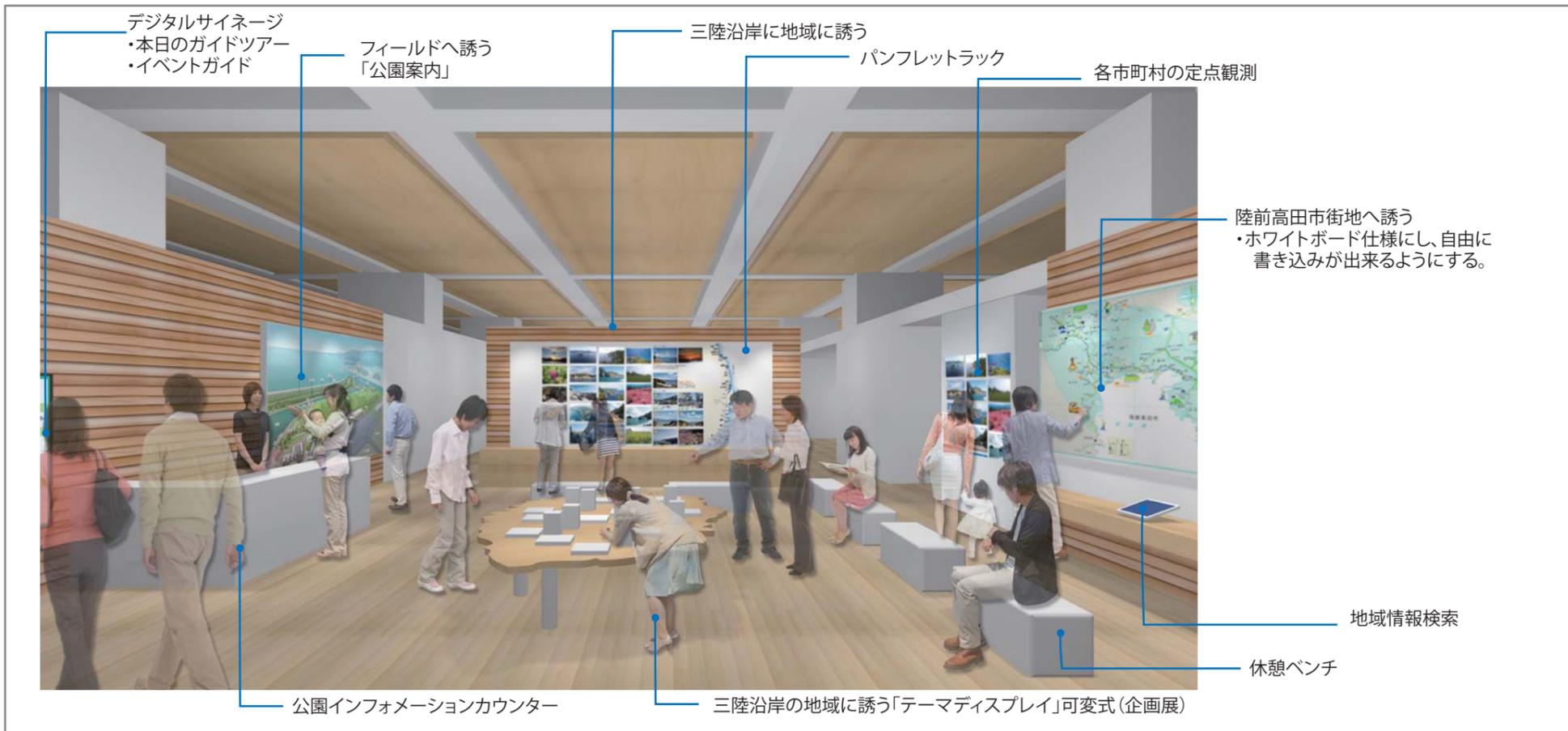
5-1 フィールドへ誘う 5-2 陸前高田市市街地へ誘う 5-3 三陸沿岸地域へ誘う

- ・本施設内の展示体験と合わせ、震災遺構の実物や、復興に取り組むまちの実際の姿などにふれていただくため、来館者を公園内のフィールド、陸前高田市街地、さらに三陸沿岸地域へと誘います。
- ・交流促進の場としても位置づけ、三陸地域のおもてなしの心や人の温もり、各地の魅力が伝わる展示や活動を通して来館者と地域の人々、三陸沿岸市町村の人々との交流を促します。

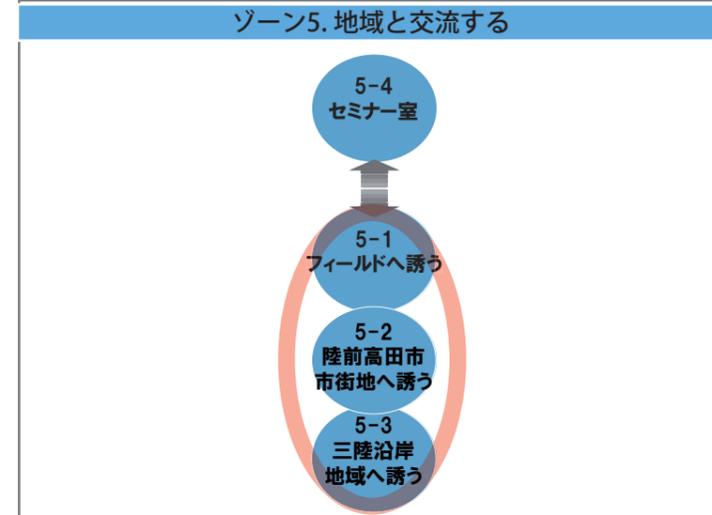
アイテム詳細説明

5-1 フィールドへ誘う 5-2 陸前高田市市街地へ誘う 5-3 三陸沿岸地域へ誘う

- ・「公園内のフィールド」、「陸前高田市街地」、「三陸沿岸地域」それぞれに地図及びデジタルサイネージにより地域案内やイベント案内を施します。
- ・パンフレットラックなども用意します。
- ・公園内フィールドについては、遺構だけでなく、復活を目指している自然の姿についても紹介します。
- ・交流促進に向け、可動式の展示什器を用意します。
- ・道の駅本来の機能である休憩スペースについてもしっかりと確保・用意します。



展示構成



特記

展示解説資料、演出展開など

ねらい

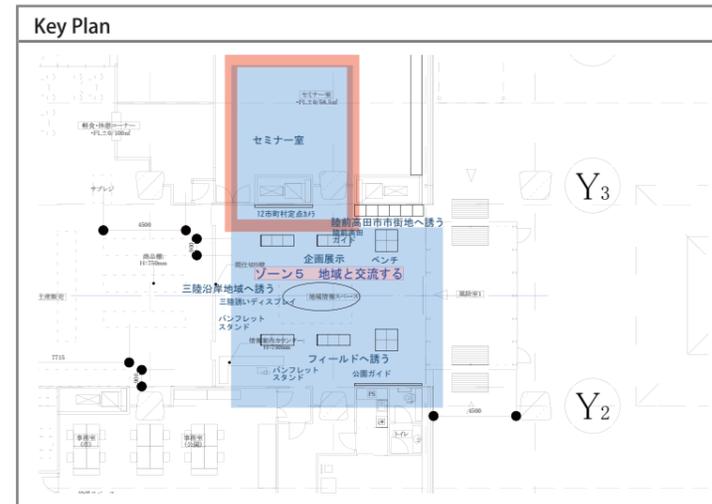
5-4 セミナー室

- セミナー室として、ワークショップや講座、研修会等に活用することを目的とします。
- 校外学習の子どもたち向けの「被災者の話を聞く会」や「紙芝居の会」など、団体利用のスペースとしても活用します。
- 休憩室、団体用の昼食スペースとしても活用します。

アイテム詳細説明

5-4 セミナー室

- 椅子・テーブルを用意、プロジェクターを設置し、セミナー等に活用できるものとします。
- ピクチャーレールを設置し簡単な掲示、展示にも活用できるようにします。
- 壁面はホワイトボード仕様とし、書き込み、消去が簡単にできるものとし、ワークショップ等で利用しやすいように工夫します。



展示構成

ゾーン5. 地域と交流する



特記



展示解説資料、演出展開など

郊外学習の子どもたちへの「被災者の話を聞く会」や紙芝居などにも活用イメージ



- その他の活用展開例
- 大学連携講座の開催
  - 防災士研修
  - 行政担当者セミナー
- などにも貸出、団体利用者が利用できるようにする。

「いのちを守る」ための教訓を持ち帰ってもらうために 「自助」「共助」「公助」の訴求対象者別に 展示見学の重点項目・活動プログラムを設定します

		自助		共助		公助			
主となる来館者ターゲット		家族・友人・カップル・観光客・個人客・ 学校団体（社会科見学・修学旅行生） など		地域防災リーダー・町内会・消防団・婦人会・ 自主防災組織・ボランティア団体・事業所 など		行政関係者・研究者・自衛隊・医療関係者 など			
主な訴求ポイント		<p><b>津波は恐ろしい！また必ず来る！だから備えが必要！</b> 津波の未経験者や観光のついでに寄った人にも、津波の恐ろしさを実感させ、防災意識を高め自主的に命を守る行動へ導きます。</p> <p><b>自分の命は自分で守る！それがみんなの命を守る</b> 津波が来たら、まず「逃げる！」ことを強く訴求。さらに、自助の行動が周囲の人を助けることにつながると気づかせます。</p>		<p><b>身近な人との交流・助け合いの重要性を知る</b> 公助・自助だけでは限界があることを知り、災害時の地域コミュニティの重要性・役割について理解を促します。</p> <p><b>それぞれの地域に合った備え・訓練を実行する</b> 災害時に地域コミュニティが機能するには、地域のことをよく知り、地域特性に合わせた備え・訓練が必要なことを訴求します。</p>		<p><b>現場での出来事を知る・被災者の視点で災害を捉える</b> 未曾有の大震災の発災から復興まで、公助がどのように機能したのか課題も併せて伝えるとともに、被災者の視点で震災を伝え、施策検討の情報やヒントを提供します。</p> <p><b>未来に起こる災害に向けて 備えと訓練を徹底する</b> *「備えていたことしか、役には立たなかった・備えていただけでは十分ではなかった」教訓から、備えと訓練の重要性を訴求します。 <small>※国土交通省 東北地方整備局「災害初期指揮心得」より</small></p>			
訴求対象別 展示見学重点項目		重点 見学項目	見学・体験ポイント	重点 見学項目	見学・体験ポイント	重点 見学項目	見学・体験ポイント		
展示項目	ゾーン1	1-1 失われた風景を訪ねる	○	<p>・科学的、歴史的にみて震災津波は今後も襲来することを知る</p> <p>・津波の恐ろしさを、物・映像で直観的に理解するとともに、被災者の言葉に共感し、心に刻み込む</p> <p>・いざ、津波が来たらどうする？自ら考え判断し 展示に参加する</p> <p>・陸前高田市街地・三陸沿岸地域の今を知り、回遊・観光の情報を得る</p>	●	<p>・発災～避難～復興～各プロセスでの事実・被災者の言葉からコミュニティの役割を知り教訓を得る</p> <p>・地形・歴史的背景・避難困難者など、地域によってさまざまな被災事例があることを知る</p> <p>・被災者の言葉や被災前・被災後の写真などから、地域の歴史や文化を見つめ直す</p> <p>・陸前高田や三陸沿岸地域の現在の取り組み、復興状況を知る</p>	○	<p>・“想定”を越えて未曾有の大震災が起きた事実を受け止め、公助の課題を認識する</p> <p>・発災時の“初動”の重要性を認識し、備えや訓練、他機関との連携等の教訓を得る</p> <p>・被災者の体験談や思い等を知り公助として必要な取り組みを認識する</p> <p>・陸前高田や三陸沿岸地域の現在の取り組み、復興状況を知り、復興の施策について考える</p>	
		1-2 繰り返す地震津波の歴史	●		○		○		
		1-3 海とともにある三陸	●		●		●		
	ゾーン2	2-1 東日本大震災津波とは（ガイドンスシアター）	●		●		○		○
		2-2 震災津波の概要	○		○		○		○
		2-3 遺物と証言のギャラリー	●		●		○		○
		2-4 被災者からみた震災津波の事実	●		●		●		●
		2-5 脅威のあの日を辿る	●		●		●		●
	ゾーン3	3-1 逃げる	●		●		○		○
		3-2 助ける・支える	○		○		●		●
		3-3 この惨禍を繰り返さないために	●		●		●		●
	ゾーン4	4-1 復興への取組	○		○		●		●
		4-2 復興メッセージ	○		○		●		○
		4-3 支援への感謝	○		○		○		●
	ゾーン5	5-1 フィールドへ誘う	●		●		●		●
5-2 陸前高田市街地へ誘う		●	●	●	●				
5-3 三陸沿岸地域へ誘う		●	●	●	●				
訴求対象別 体験プログラム		見学・体験ポイント		見学・体験ポイント		見学・体験ポイント			
体験する場	セミナー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災体験者からの話を聞く会</li> <li>津波について語り継ぐ紙芝居の会</li> <li>学校団体向け 防災授業 など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>防災士研修</li> <li>地域が連携し共同開催する防災リーダー講習</li> <li>ボランティア団体の活動発表 など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>行政担当者セミナー</li> <li>被災地連携 行政・医療関係者 情報意見交換会</li> <li>大学・研究者・専門家向け セミナー など</li> </ul>			
	屋外	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災遺構見学（津波の高さ・津波の破壊力などを実感する）</li> <li>地域の歴史・自然スポット探索</li> <li>追悼・献花・海をのぞむ場 など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>震災遺構見学（避難経路・避難誘導の教訓を得る）</li> <li>自然や景観の回復状況見学</li> <li>追悼・献花・海をのぞむ場 など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>震災遺構視察（避難経路・避難誘導・救助の教訓を得る）</li> <li>自然や景観の回復状況視察</li> <li>追悼・献花・海をのぞむ場 など</li> </ul>			

破壊された建物を目の当たりにして 追悼の場に立って 感じる事・学ぶことを重視し、公園内の震災遺構等へ回遊を促す方策を検討します。

【回遊を促す方策の検討】

見学コースの設定

実際に震災遺構等へ足を運んでいただくには、めぐり方を提示する必要があります。

そのため、いくつか見学コースを設定して、見学者がそれぞれの目的やニーズに合わせてめぐり方を選択したり、社会科見学や修学旅行、視察等に活用したりできるよう検討します。

【見学ルート例】

● 震災津波伝承施設 周辺コース

震災津波伝承施設から徒歩圏内で行けるコンパクトなコース。多くの方が回遊しやすく、震災津波への理解と被災者への共感を深めることができます。

回遊スポット

- A-① タピック45
- D-① 追悼の広場
- D-② 献花台
- C-⑤ 海をのぞむ場

● 震災津波の脅威を実感するコース

震災津波による被害を物語るスポットで構成するコース。襲来した津波の高さや破壊力を見ることができます。

回遊スポット

- A-① タピック45
- A-② ユースホステル
- A-③ 気仙中学校
- A-④ 下宿定住促進住宅
- A-⑤ 奇跡の一本松
- A-⑥ 被災マツ根株

● 郷土の記憶・歴史をたどるコース

陸前高田市の歴史や自然に関するスポットで構成するコース。特に地元の小中学生の社会科見学や地域の生涯学習などを想定します。

回遊スポット

- C-① 市道跡
- C-② JR踏切跡
- C-③ 古川沼
- C-④ 高田松原保安林
- A-⑤ 奇跡の一本松
- A-⑥ 被災マツ根株
- B-① ベルトコンベア基礎

副読本や学習用DVDの制作も検討



【高田松原津波復興祈念公園内の主な震災遺構等】



- A 震災遺構・震災学習スポット**
- A-① タピック45
  - A-② ユースホステル
  - A-③ 気仙中学校
  - A-④ 下宿定住促進住宅
  - A-⑤ 奇跡の一本松
  - A-⑥ 被災マツ根株

- B 復興関連スポット**
- B-① ベルトコンベア基礎

- C 地域の自然・歴史関連スポット**
- C-① 市道跡
  - C-② JR踏切跡
  - C-③ 古川沼
  - C-④ 高田松原保安林
  - C-⑤ 海をのぞむ場

- D 追悼関連スポット**
- D-① 追悼の広場
  - D-② 献花台



## 3. 事業計画

---

## ■ 事業計画の基本的な考え方

## 事業計画の基本は、本施設の使命を効果的に果たすこと

基本計画においては、本施設の使命として「多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へと伝承」、「世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信」の二つが掲げられています。事業計画の基本は、これら二つの使命を効果的に果たすことです。

## [本施設の使命]

- 多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承
- 世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信

## ■ 想定される事業イメージ

## 本施設の事業の柱を、「展示事業」と「教育・普及事業」の二つとし、この二つの事業を充実・発展させるために、三つの連携活動を推進するものとします

## 事業1 展示事業

- 三陸沿岸被災地の復興に向けての歩みとともに進化・成長する展示の実現
- 常設展示では実現しにくい展開や、最新のテーマをとりあげるなど、常設展示を補完する企画展示の実施

## 常設展示の更新

復興の進展や新たな研究成果などを反映させるなど、必要に応じて随時常設展示を更新します。

- ・三陸沿岸被災地の復興の歩みを反映
- ・震災津波、防災・減災の新たな研究成果を反映
- ・新たな資料発掘にともなう展示更新、等

## 企画展示の開催

特定テーマを深く掘り下げたり、時宜に即したテーマを取り上げるなど、随時、新しい話題を提供する企画展示を実施します。

- ・常設展示のテーマを広げたり深めたりする展示
- ・時宜に即した新しいテーマの展示
- ・常設展示では実現しにくい展開手法の展示、等

## 事業2 教育・普及事業

- 国内外の子どもから専門家まで、幅広い層の利用を前提に、多様なニーズに対応する学習プログラムを整備。
- フィールドや展示、語り部等の人材など、本施設が有する多様な要素を活かして、ここだけの質の高い教育普及プログラムを構築。

## 各種学習プログラムの整備・実施

多様なニーズを想定し、各種学習プログラムの整備・実施を検討します。

- ・展示ガイド
- ・震災遺構を巡るフィールドツアー
- ・語り部活動
- ・ワークショップ、研修会
- ・防災訓練プログラム
- ・防災・減災リーダー研修
- ・企業研修、等

## 語り部・ボランティアの教育・人材育成

教育普及活動の質を向上させるため、その担い手となる語り部やボランティアの教育・研修を実施します。

- ・語り部・ボランティアのための研修プログラム
- ・類似の施設や活動の視察研修、等

## 大型イベントの企画・実施

シンポジウムや復興支援イベントなど、大型のイベントを実施、あるいは誘致することを検討します。

- ・シンポジウムや講演会等の企画
- ・実施
- ・各種復興支援イベント、等

## 各種教材の開発

震災・津波伝承・防災・減災学習に係るガイドブックやDVD教材など、各種教材を開発することを検討します。

- ・震災津波伝承、防災・減災学習に係るガイドブック
- ・DVD教材の開発
- ・写真集や証言集の編纂、等

## 上記二つの事業を充実・発展させるために、三つの連携活動を推進

## 大学等関連研究機関と連携

## 事業に関連機関の調査・研究資源を取り込みます

- 震災津波、防災・減災等に係る先端的な調査・研究成果を教育・普及事業や展示に活用できるようにするとともに、研修・講座等の教育活動において研究者・専門家の支援を得られるよう、県内外の関連研究機関、国内外の代表的津波防災学習施設等との連携を推進します。
- 関連する研究機関、市民組織、企業等との共同調査・研究を実施します。

<想定される連携機関>

・岩手大学地域防災研究センター・東北大学災害科学国際研究所・宮城県の復興祈念公園・福島県の復興祈念公園、等

## 三陸被災地をはじめとした県内各地域と連携

## 震災津波伝承の活動ネットワークを育てます

- 震災津波伝承活動を広げ、活性化するために、三陸沿岸市町村をはじめとした県内各地とのネットワークを構築し、一体感を育みます。
- 三陸沿岸市町村をはじめ、県内各地域との連携・協働事業を推進します。

## アーカイブ事業と連携

## アーカイブを事業活動に最大限活かします

- 県の震災津波アーカイブ事業と密に連携し、この事業を通じて蓄積されるアーカイブ資料を教育・普及事業、展示事業に最大限活かします。

■ 事業体制の検討

多様な人・組織・機関と多様な連携・協働を推進し、多彩で充実した事業活動の実現を目指します。

利用者の多様なニーズに応えるためには、多様な事業展開が求められます。

本施設では、震災津波伝承と復興の姿の発信という共通の目的を持つ、大学等の研究機関、消防等の関連行政機関、企業、NPO等の市民団体、語り部活動を行う市民など、多様な人・組織・機関との連携を推進し、協働プロジェクトの企画・実施、本施設の活動への参画、研究成果の提供など、様々なかたちで本施設の事業に関わって頂くことを目指します。

こうした多様な連携・協働を通じて、専門的知見、研究成果、経験、意欲などと広くつながることで、本施設だけではできない、幅広い事業展開の実現を図るとともに、外部の人・組織・機関と一体となった、事業推進ネットワークを構築を目指します。

■ 連携・協働をベースとした事業体制の全体像

